高松市埋蔵文化財調査報告　第145集

介護老人保健施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

条　里　跡

2012年6月

医療法人社団　以和貴会
高松市教育委員会

1　SX60 検出状況

2　条里跡出土遺物

例　　言

1　本書は，介護老人保健施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で　，条里跡にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本報告書の執筆は，渡邊誠が第１～４章，上原ふみが第３章の遺物を執筆し，編集は渡邊が行った。

3　本報告の高度値は海抜高を表し，方位は座標北を示す。

4　出土遺物の実測図は，土器・土製品は１　／３，１／４，石器は１　／２，遺構の縮尺については図面ごとに示している。

6　発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

目　　次

第１章　調査の経緯と経過……1
第２章　地理的・歴史的環境……2
第３章　調査の成果……5
第４章　まとめ……27

挿　図　目　次

第１図　高松市および市域における位置図……2
第２図　周辺遺跡分布図……3
第３図　基本層序模式図……5
第 4-1 図　遺構配置図（西側）……6
第 4-2 図　遺構配置図（東側）……7
第５図　SK47・50・52・54・55・65・72
平・断面図 (S=1/40)……9
第６図　SK67・76・82・90
平・断面図 (S=1/40)……10
第７図　弥生時代の遺構出土遺物 (S=1/2・1/3) ……11
第８図　SD20 平・断面図
(平面図 S=1/120, 断面図 S=1/40)……12
第９図　SD20 出土遺物 (S=1/3)……12
第 10 図　掘立柱建物および柵列に伴う柱列
平面図 (S=1/200)……13
第 11 図　SP7・35・46・48・53・58・66・77・78・
80・81・83・85・86 平・断面図 (S=1/40)…14
第 12 図　SK49・64・76,SD15・24 平・断面図 (S=1/40)
……15
第 13 図　SK・SD・SP 出土遺物 (S=1/3)……16
第 14 図　SX60 平・断面図 (S=1/60)……17
第 15 図　SX60 出土遺物① (S=1/3)……18
第 16 図　SX60 出土遺物② (S=1/3,1/4)……19
第 17 図　SK1・30・31・32,SD10 平・断面図 (S=1/40)
……21
第 18 図　SP14・23・44,SX11 平・断面図 (S=1/40)
……22
第 19 図　近世遺構出土遺物① (S=1/3)……22
第 20 図　近世遺構出土遺物② (S=1/3,1/4)……23
第 21 図　近世遺構出土遺物③ (S=1/4)……24
第 22 図　その他の 出土遺物 (S=1/2,1/3,1/4)……26
第 23 図　条里跡周辺地形等 ……28

挿　表　目　次

第１表　整理作業工程表……1
第２表　遺跡一覧表……3
第３表　出土遺物観察表……29

巻　頭　図　版　目　次

図版１　SX60 検出状況
図版２　条里跡出土遺物

写　真　図　版　目　次

写真図版 1-1　SK54 土器出土状況（南から）
写真図版 1-2　SK47 周辺完掘状況（東から）
写真図版 1-3　SK55 土器出土状況（東から）
写真図版 1-4　SK67 周辺完掘状況（南東から）
写真図版 2-1　SD20 完掘状況（南から）
写真図版 3-1　SD20 完掘状況（北から）
写真図版 3-2　SD20 北端完掘状況（南から）
写真図版 3-3　SD20 北から 2 カ所目北壁土層（南から）
写真図版 3-4　SD20 北端北壁土層（南から）
写真図版 3-5　SD20 南端北壁土層（南から）
写真図版 4-1　SX60 上層検出状況（南から）
写真図版 4-2　SX60 下層検出状況（南から）
写真図版 5-1　SX60 周辺柱穴検出状況（南から）
写真図版 5-2　SX60 周辺柱穴完掘状況（南から）
写真図版 6-1　SX60 土器出土状況（南から）
写真図版 6-2　SK90 周辺完掘状況（北から）
写真図版 7-1　掘立柱建物および柵列に伴う柱列完掘状況（南から）
写真図版 7-2　調査地南東部完掘状況（南から）
写真図版 8-1　調査地南東隅部完掘状況（南から）
写真図版 8-2　調査地中央部完掘状況（南東から）

写真図版 9-1　調査地南西部完掘状況（南西から）
写真図版 9-2　調査地北西部完掘状況（北から）
写真図版 10-1　SP53 土器出土状況（北から）
写真図版 10-2　SP 7 完掘状況（南から）
写真図版 10-3　SD10 完掘状況（西から）
写真図版 10-4　SD10 東壁土層（西から）
写真図版 11-1　SX11 上層検出状況（南東から）
写真図版 11-2　SX11 完掘状況（南東から）
写真図版 12-1　SX11 北側石積み（南東から）
写真図版 12-2　SX11 南側石積み（北から）
写真図版 13-1　SK31 完掘状況（南東から）
写真図版 13-2　調査地遠景（南東から）
写真図版 14-1　出土瓦
写真図版 14-2　弥生土器（SK54）
写真図版 14-3　石鏃

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯と経過

平成22年12月３日に株式会社菅組より香南町由佐102番地１，２，15における包蔵地照会があり，当該地は条里跡に含まれていたものの，包蔵状況が不明確であった。そのため，内容確認のための確認調査を実施し，保護措置の有無を検討することとなり，平成22年12月７日に確認調査を実施した。その結果，開発範囲において中世の柱穴などの遺構および遺物を確認したため，保護措置が必要であると考えられた。

その後，工事計画が決まり，事業主体である医療法人社団以和貴会から平成23年６月１日付けで埋蔵文化財発掘の届出が提出され，香川県教育委員会から平成23年６月９日付けで工事によって影響を受ける範囲において事前に発掘調査を実施するよう通知があった。

これを受けて，６月に発掘調査の実施にむけて本市教育委員会と医療法人社団以和貴会で協議を行った。その結果，調査期間，調査費用について合意に至り，６月20日に協定書を取り交わした。そして，（仮称）介護老人保健施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として，埋蔵文化財の調査を開始した。

建物基礎および擁壁工事によって影響を受ける511㎡を対象として発掘調査し，その後，発掘調査時には対応ができなかった付帯工事（擁壁）範囲については９月７～８日にかけて工事立会を実施し，記録保存を行った。詳細は下記のとおりである。

対象面積　511㎡
調査主体　高松市教育委員会
調査原因　介護老人保健施設建設
調査期間　平成23年６月23月～７月29日
立会期間　平成23年９月７日～８日

具体的な作業は，工事計画の関係から表土の掘削を立会を実施しながら行った後，建物の基礎の位置だしを行い，その部分について遺構の検出および掘削等を行った。ただし，擁壁工事の部分で，大型遺構（SX60）が確認されたため，その部分については，今回の対象範囲から外れる部分についても調査を実施した。

第２節　整理作業の経過

整理作業は，平成23年度から平成24年度にかけて継続して実施し，渡邊が総括し，渡邊，上原，高上が分担し，片桐節子，西尾明美が補佐した。経過については，下記の第１表の通りである。

具体的には平成23年度に出土遺物の洗浄および接合を実施し，分類作業および選別作業を行った。その後，遺構図面の整理および出土遺物の実測および拓本作業を行った。平成24年度は出土遺物の製図および図面のレイアウトを行い，執筆および編集作業を実施した。

（渡邊　誠）

第１表　整理作業工程表

	平成23年度								平成24年度		
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
洗　　浄	■										
接合・復元		■	■	■							
実　　測							■	■			
トレース								■			
写真撮影					■						
レイアウト									■	■	
執筆・編集										■	■

発掘調査風景

工事立会状況

第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

本調査地は高松市南西部に位置し，本市香南町（以下，香南町という）地域である。南部は阿讃山脈（讃岐山脈）から派生する丘陵山地が東西方向に伸びており，中央部では香東川が丘陵山地を抜け高松平野へと北流している。

地質学の所見によれば，この丘陵山地は領家花崗岩類と呼ばれる花崗岩山地と浸食により形成された段丘からなる。さらに後者は丘陵と台地とに分類されている。

花崗岩山地は本市香川町（以下，香川町という）の南端部，東谷地区の周辺で広がり，発達した川に沿って渓谷が形成され，小規模な谷が入り組む複雑な地形を呈する。また香川町北部，浅野地区の周囲に散在する低山は浸食作用から逃れ，島状を呈するが，その基盤も花崗岩とされている。

丘陵部は本来，旧香東川による扇状地とされ，香川町鮎滝，下倉地区から香南町の西に位置する千疋地区にかけて認められるが，次第に綾川の影響が大きくなり，西方では両河川の複合扇状地となっている。

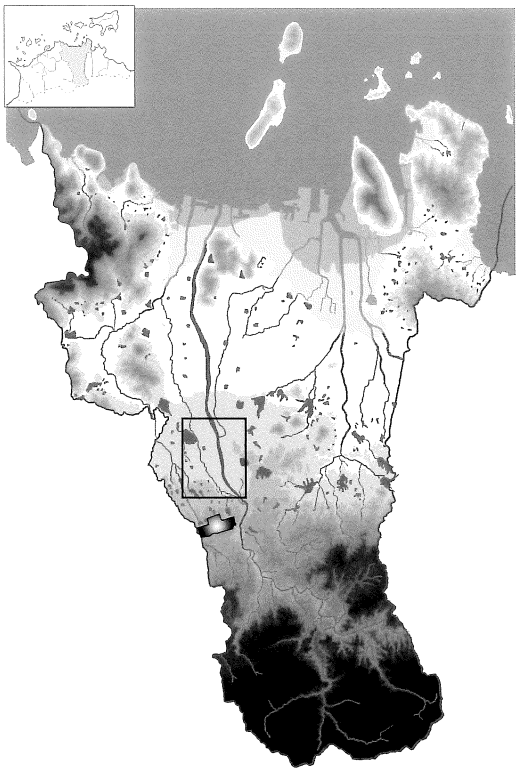
台地は高位の段丘が形成された後の河川によって形成された扇状地であるが，現在ではこの台地を刻んだ川筋が谷池，皿池といった溜池を繋ぐ微地形において認められ，鮎滝付近を起点とし香川町では北東方向，香南町では北西方向へと下るのが観察される。

香川町では新池から浅野地区に点在する池を経て平池に至り，古川から春日川へ，あるいは高松平野中央部の溜池へと延伸することが分かる。

一方の香南町では，高松市西部を流れる本津川は西庄の琴谷池を源流としており，音谷池等周辺に点在する池から発する川も合流する。その東方の岡地区奥谷池に発する古川は，小田池を経て北西へ下り御厩町北端で本津川と合流し瀬戸内海へと注いでいる。

平野部については，ほぼ現況の流路となった香東川の堆積により形成されており，両岸にその氾濫原をみることができる。特に，東側（香川町側）ではその傾向が著しい。香東川は阿讃山脈の大滝山，三木町津柳を源流として，塩江町を流れる複数の河川を合せながら香川町岩崎付近で平野に至る。これを頂部とする扇状地である高松平野を北流しており，その形成にあって多大な影響を与えたと考えられる。

現況でみられる主要道のうち，徳島県に繋がる塩江街道は馬の背と呼ばれる岩崎，川東上を頂部とし高松平野へと下る往時の幹線道であり，この塩江街道と交わり東讃，西讃域へ抜ける三木綾南線が高松平野の南部を東西方向を繋ぐ幹線となっている。このように，当遺跡周辺は東・西讃，阿波地域を結ぶ要所として重要である。



第１図　高松市および市域における位置図

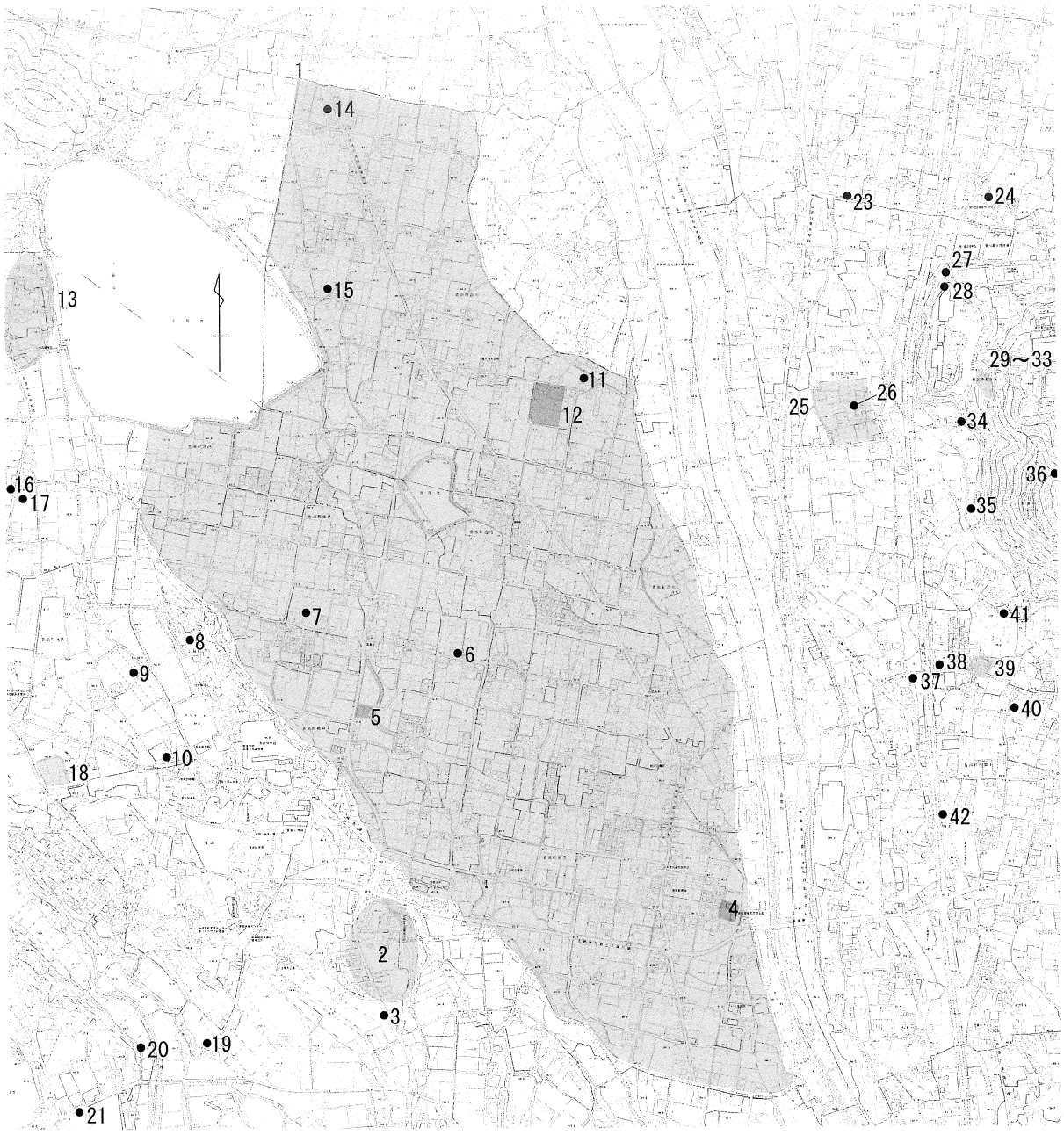
第２節　歴史的環境

本調査地周辺において認められる遺跡・遺物では，弥生時代のものが初見となる。香南町で発掘された岡清水遺跡では，弥生時代後期に属する集落域や墓域（土器棺墓，土坑墓）などが確認されている。住居跡の形態から播磨地域との密接な関係が指摘されている。

この他に山下墳墓跡の壺棺，弥生土器や石器類の散布地として浅野八幡遺跡，船岡山，新池，龍満山東斜面，油山北麓・南西斜面，川内原の鈴向，冠纓神社遺跡，小田池西遺跡，奥谷遺跡，香南小学校周辺，旧由佐小学校校庭が知られている。

また，出土の経緯は不明だが，香川町安原下の下倉八幡神社に奉納されたという平形銅剣４口は注目される。分布の集中する伊予・西讃域との交流が想定されとともに，青銅器を保有する背景についても注目される。

古墳時代では集落の確認例はなく，まず，前期に属するものとして，船岡山山頂に築かれた前方後円墳が挙げ



第２図　周辺遺跡分布図

第２表　遺跡一覧表

No	遺跡名	時代	性格	No	遺跡名	時代	性格	No	遺跡名	時代	性格
1	条里跡	古代		15	中下の塚	中世	墓	29	龍満山古墳群１号墳	古墳	古墳
2	冠嬰神社遺跡	弥生	集落	16	古田１号塚	中世	墓	30	龍満山古墳群２号墳	古墳	古墳
3	冠嬰神社南の塚	中世	墓	17	古田２号塚	中世	墓	31	龍満山古墳群３号墳	古墳	古墳
4	由佐城跡	中世	城館	18	池内城跡	中世	城館	32	龍満山古墳群４号墳	古墳	古墳
5	横井城跡	中世	城館	19	茶園窯跡	古代	窯跡	33	龍満山古墳群５号墳	古墳	古墳
6	横井の塚	中世	墓	20	大坪窯跡	古代	窯跡	34	配石	-	-
7	宝三地の塚	中世	墓	21	大坪古墳	古墳	古墳	35	配石	-	-
8	尾崎塚	中世	墓	22	岡館跡	中世	城館	36	横岡山古墳	古墳	古墳
9	城１号塚	中世	墓	23	臼井の塚	中世	墓	37	安倍清明の墓	中世	墓
10	城２号塚	中世	墓	24	山下墳墓	弥生	墓	38	五輪塔	中世	墓
11	佐賀神社古墳	古墳	古墳	25	龍満城跡	中世	城館	39	乾城跡	中世	城館
12	吉光城跡	中世	城館	26	五輪塔	中世	墓	40	五輪塔	中世	墓
13	小田池西遺跡	弥生	集落	27	配石	-	-	41	五輪塔	中世	墓
14	若宮神社古墳	古墳	古墳	28	剣山古墳	古墳	古墳	42	荒神	中世	墓

られる。現在，発掘調査を実施しており，重要な成果が蓄積されつつある。

後期古墳では，横穴式石室墳として，万塚古墳（香川町浅野），横岡山古墳（香川町浅野），東赤坂古墳（香川町浅野），舟岡古墳（香川町浅野），八王子古墳（香川町浅野），龍満山古墳群（香川町川東下），佐賀神社古墳（香南町由佐），城所山１号墳・２号墳（香南町岡）などがある。

古代には，律令制の行政区で讃岐国香川郡に属し，このなかで大野・浅野地区が大野郷，川東・川内原・東谷・由佐・安原の一帯が井原郷に比定されている。これに関わる資料としては，長岡京出土の木簡（荷札）に「讃岐国香川郡大乃道守在万呂白米五斗」とあり，大野郷が奈良時代末期まで遡るものと考えられている。

遺跡として挙げられるものでは，香南町西部で大坪窯跡をはじめとする須恵器窯がある。音谷池に集中するが，新池窯跡，池谷窯跡もあり，本津川流域の開析谷周辺で更に古窯址群が分布する可能性も考えられ，近隣に位置する綾川町陶窯跡群との関係が注目される。

当該期の寺院・集落跡については未確認である。ただし，香南町由佐に所在する冠纓神社は，貞観３年（861），智証大師円珍による創建が伝わるほか，香南町岡に位置する奥谷の寺跡が，複弁八葉蓮華文軒丸瓦など平安時代後期～鎌倉時代における瓦の散布地として知られている。また，本遺跡名である条里跡が明瞭に残る地域として，古代に起源をもつ地割が良く残っている。

中世に入ると，香西氏と同族で，源平の合戦において功があったとされる大野氏が知られている。その後，讃岐守護，細川氏に由来をもつ寺社・城館が多くみられることが注目される。細川氏は室町幕府の管領三家の一つで，南北朝の動乱期において足利尊氏を助け瀬戸内沿岸の要所で活躍，四国を根拠地に近畿に勢力を伸ばしたとされ，京都の嫡流を上屋形，阿波・讃岐の守護を下屋形と呼んだ。このうち讃岐守の細川頼之に従った由佐氏，岡氏，森氏，佃氏，二川（龍満）氏，漆原氏が，大野や井原に城館を築いたとされ，現在に残る地名や墓，地割などから各々の比定地が挙げられている。

細川頼之は宇多津を本拠として，貞観元年（1362），南朝方で白峰の高屋城に拠った細川清氏を討ち，また康暦元年（1379）には，阿讃両国を率いて，予州の河野氏に勝利している。予州の合戦に際しては，氏神とした冠纓神社や大野石清水八幡神社に祈願したと伝えられている。この中で由佐城，龍満城については，一部発掘調査が実施されている。由佐城は「お城」の地名や土塁跡が一部残っており，発掘調査では並走する堀跡や柱穴が確認されている。本調査地周辺は南門という地名が残り，関連が想定される。龍満城は，現況で幅 18 ～ 20 mにわたる堀の痕跡が認められ，東西 156 m，南北 170 m の範囲に屋敷地が推定できるもので，発掘調査では廃城後に建立された薬師庵の土塀，石垣を確認した他，これに先行する土塁が確認されている。

戦国時代になると，これらの氏族は細川氏の後に三好，長宗我部へと属することとなり，豊臣秀吉の四国平定時には知行を失うが，多くが生駒藩において登用され，この後も旧家として残ったようである。

このほか，大野で出土し，栗林公園に移された「大禹謨」は，生駒藩に仕え治水工事に長けた西嶋八兵衛の書を刻むものとされ，香東川の付け替え工事に関連するものと言われている。（渡邊　誠）

【参考文献等】

香南町教育委員会・香南町史編集委員会 1970『香南町史』，
香南町教育委員会・香南町史編集委員会 1996『香南町史　続編』
香南町教育委員会 1997『由佐城跡』
香川町誌編集委員会 1993『香川町誌』
香川町教育委員会 2000『龍満城跡』，2005『舟岡古墳』
香川町教育委員会・高松市水道局 2003『龍満山古墳群～１号墳～』
香川県教育委員会 2001『香川県中世城館跡詳細分布　調査報告』
香川県教育委員会 2003『国道 193 号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　岡清水遺跡』
瀬戸内海歴史民俗資料館 1985「香川県古代窯業遺跡分布調査報告Ⅱ」『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要』第２号
高松市教育委員会 1992『弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書　讃岐国弘福寺領の調査』
高松市教育委員会 2008『横岡山古墳・城所山古墳群』

第３章　調査の成果

第１節　調査成果の報告にあたって

調査対象範囲は建物の基礎によって埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲のみとなったため，調査区のほとんどが第４図のようにトレンチ状を呈する。そのため，調査時には便宜的に個々のトレンチに名称を付与して実施したが，本報告では煩雑になるため調査区名については記述を行わない。

また，調査時はS-●という形で遺構番号を付与し，整理時に遺構の性格を付与する形をとった。

確認した遺構は，弥生時代後期，古代，中世，近世で，特に，中世の遺構が顕著で，調査区の全域に展開しており，試掘調査とも合致している。その一方で，北東方向に弥生時代の遺構が集中し，北西方向に近世の遺構が集中するという偏在性が認められた。

古代の遺構はほとんどないが，本遺跡名でもある条里を区画する大溝を後述するように想定した位置で確認することができた。中世段階の遺構の多くは建物の柱穴で，後述するように柱列を多数確認したものの，建物基礎以外の部分が調査地域外であったため，面的に遺構を把握できず，建物であるか柵列かの厳密な判断ができていない。

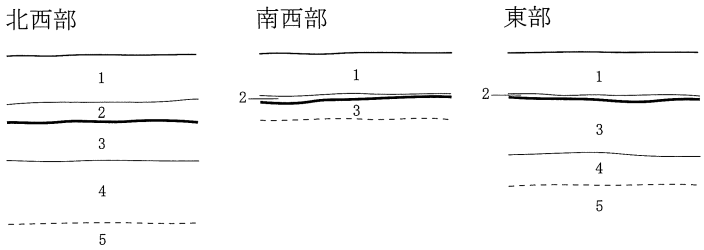
また，遺構の埋土は，時代ごとで大よそ次のような共通性が認められた。近世以降は白色系粘質土，中世は褐灰色粘質土，弥生時代の遺構埋土は地山起源の黄褐色粘質土に炭化材等をやや含むものであった。特に，弥生時代の遺構は埋土が地山に酷似しており，検出と完掘の判断がやや困難であったものも存在した。

第２節　基本層序

発掘調査は開発工事の工程等の関係から，表土を全て漉き取りした後に該当範囲においてのみ調査を実施することとなった。そのため，調査区の基本層位を示す土層の横断図を作成することができなかった。

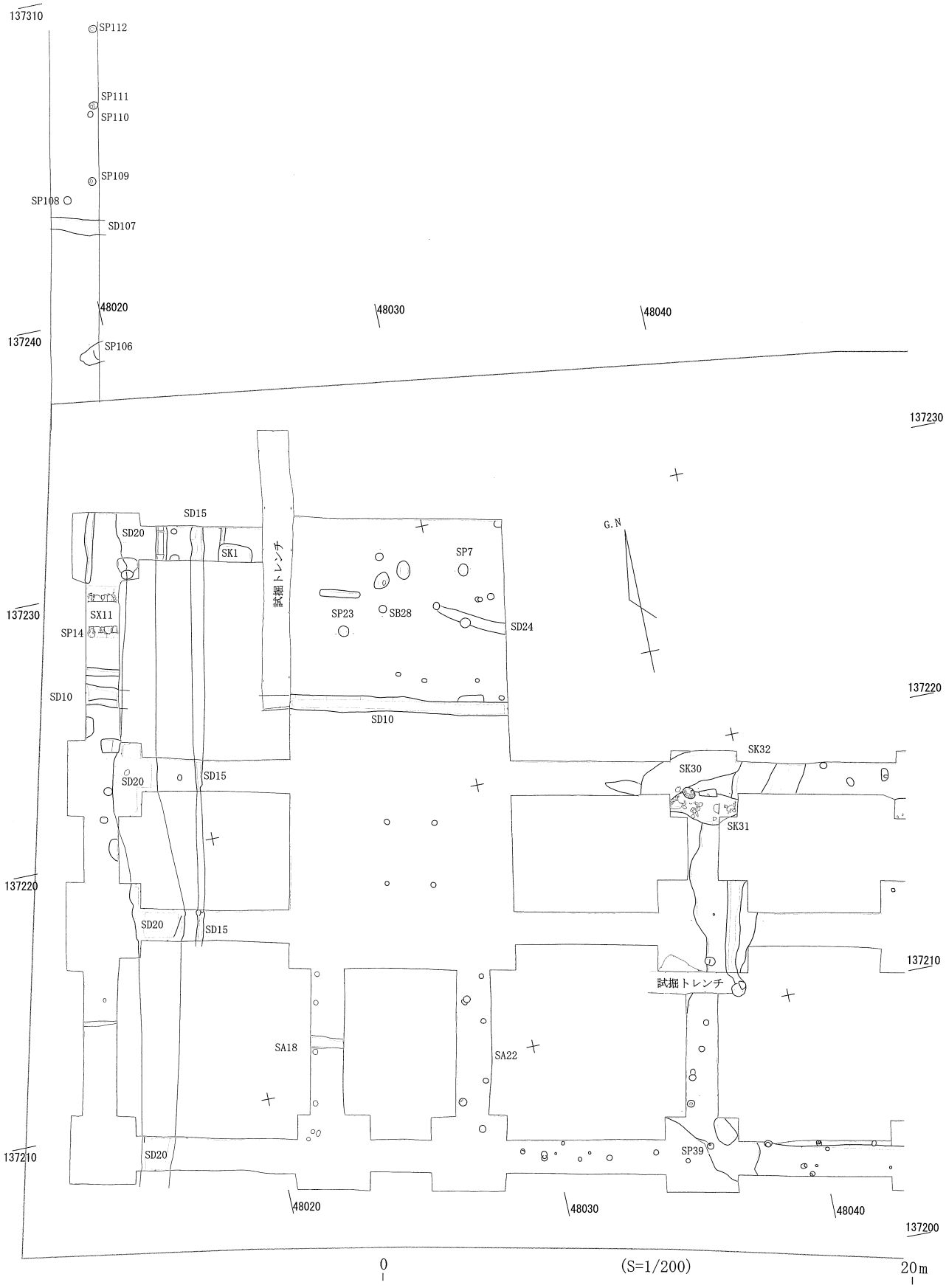
ただし，確認調査時に横断的な土層の把握を行っており，対象地は基本的には，第３図のように最上層から耕作土，床土，黄褐色粘質土（地山）であることが判明していた。また，表土漉き取り時に立会を実施し，確認調査の所見との相違はなかったことを確認している。ただし，漉き取り時の立会によって，調査区の南東から北西にむけて土地が傾斜しており，北西部では地山直上に明黄褐色シルト層が薄く堆積している状況を確認することができた。

また，今回の調査地はすべての時代の遺構が同一面でで把握されたこと，後世の堆積作用がほとんど認められないことから，一定程度の削平を考えざるを得ないことも明らかとなった。特に古い段階の遺構については上層部が削平されている可能性を想定しておきたい。

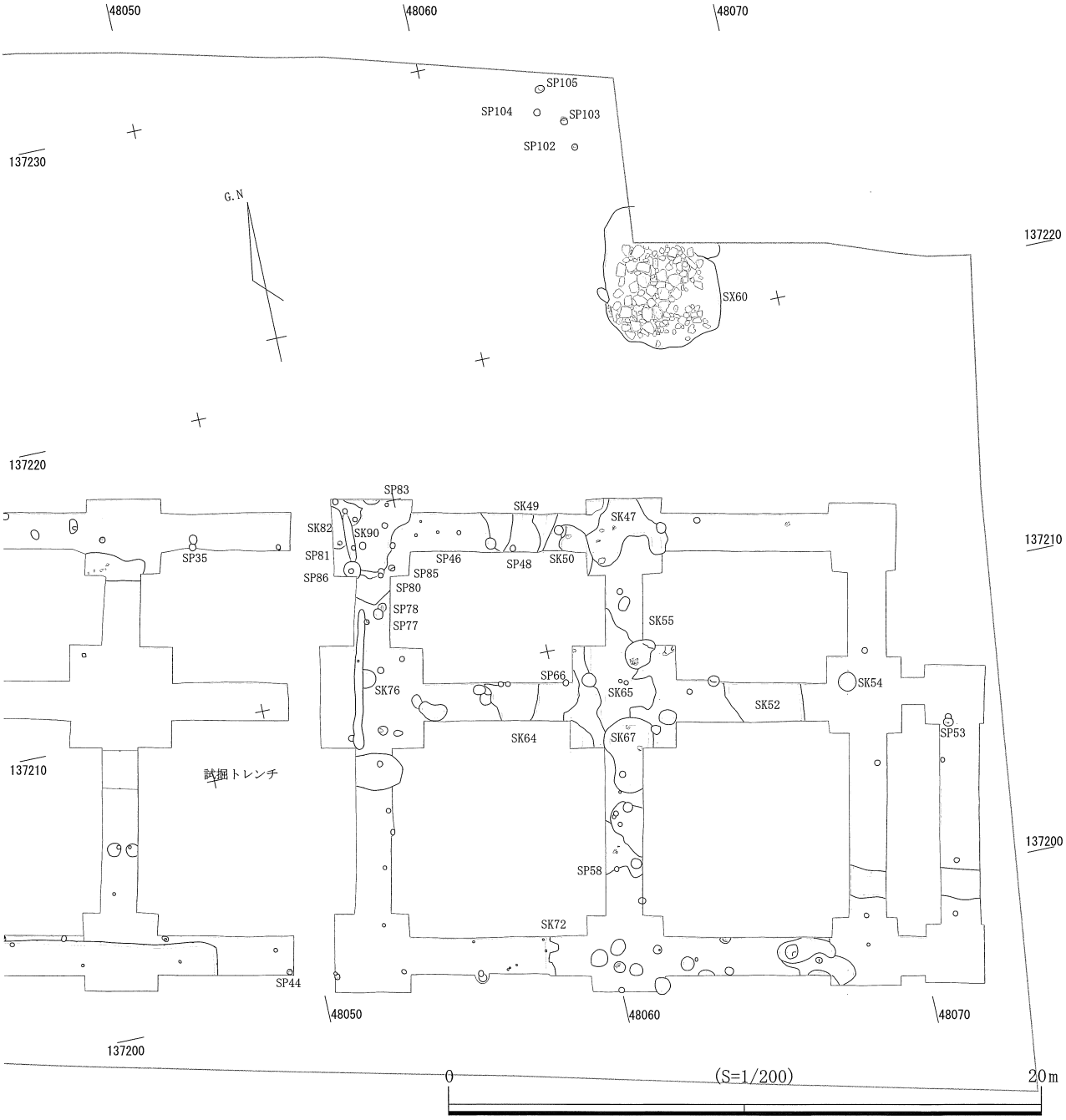


1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y7/6 明黄褐色シルト質粘土
4. 2.5Y8/4 浅黄色シルト質粘土
5. 2.5Y8/4 浅黄色シルト（礫混じり）

第３図　基本層序模式図



第４- １図　遺構配置図（西側）



第４-２図　遺構配置図（東側）

第３節　遺構と遺物

既述のとおり，本調査によって確認された遺構および遺物は，弥生時代後期，古代，中世，近世に分類できることから，これらの順で記述を行うこととする。なお，遺物の詳細については第３表の出土遺物一覧表を参照していただきたい。

１　弥生時代の遺構と遺物

既述のとおり，弥生時代の遺構は調査地の北東方向に集中し，土坑がそのほとんどであった。詳細は下記のとおりである。

SK47（第５・７図）

調査区北東部に位置し，不整形な土坑である。幅は50～120cmで，深度は18cmと浅い。西側をSK50に切られる。埋土はブロック状を呈するような状況で，埋め戻された可能性が想定される。出土遺物（１～５）は弥生土器の甕形土器の破片で，後期後半と考えられる。

SK65（第５・７図）

調査区東部中央に位置し，かなり歪な形態をする土坑で，現存最大長380cm，幅100～180cmである。SK55，SK67に切られる。深度は26cm，埋土は大きく４つに区分できるが，堆積状況は複雑である。出土遺物(13～15)は弥生土器の甕形土器で，後期後半と考えられる。

SK55（第５・７図）

調査区東部中央に位置し，長軸115cm，幅90cmのやや不整な楕円形を呈し，SK65を切る。深度は15cmで埋土は褐灰色粘質土である。完形と考えられる土器が潰れたような状況で出土したが，土器自体の遺存状況が悪く，完形に復元することはできなかった。出土遺物(10)は弥生土器の甕形土器で，高松平野に特徴的な形態である。時期は後期後半である。

SK52（第５・７図）

調査区東部に位置し，最大幅260cmの大型の土坑である。深度は22cmで，埋土は４つに区分できる。出土遺物（９,19）は弥生土器の甕形土器とサヌカイト製の石鏃である。甕は，高松平野に特徴的な形態のものである。時期は後期後半である。

SK54（第５・７図）

調査区東部に位置し，直径64cmの円形を呈する土坑である。深度は16cmで，埋土は３層に区分でき，上層から褐灰色シルト質粘土，黄色粘質土，明黄褐色砂質粘土が水平堆積していた。出土遺物(16)は弥生土器の甕形土器で，時期は弥生時代後期後半である。

SK50（第５・７図）

調査区北東部に位置し，やや不整な楕円形を呈し，SK47を切っている。最大長190cm，幅100cmである。深度は30cmで，埋土は灰白色シルト質粘土である。出土遺物（７，８）は弥生土器の甕形土器で，時期は限定できないが後期後半と考えられる。

SK67（第６・７図）

調査区東部中央に位置し，最大長252cm，幅140cmの歪な隅丸方形を呈する。深度は28cmで，埋土は３層に区分でき，水平堆積である。出土遺物(11,17)は弥生土器の甕形土器で，後期後半と考えられる。11は高松平野に特徴的な形態のものである。

SK72（第６・７図）

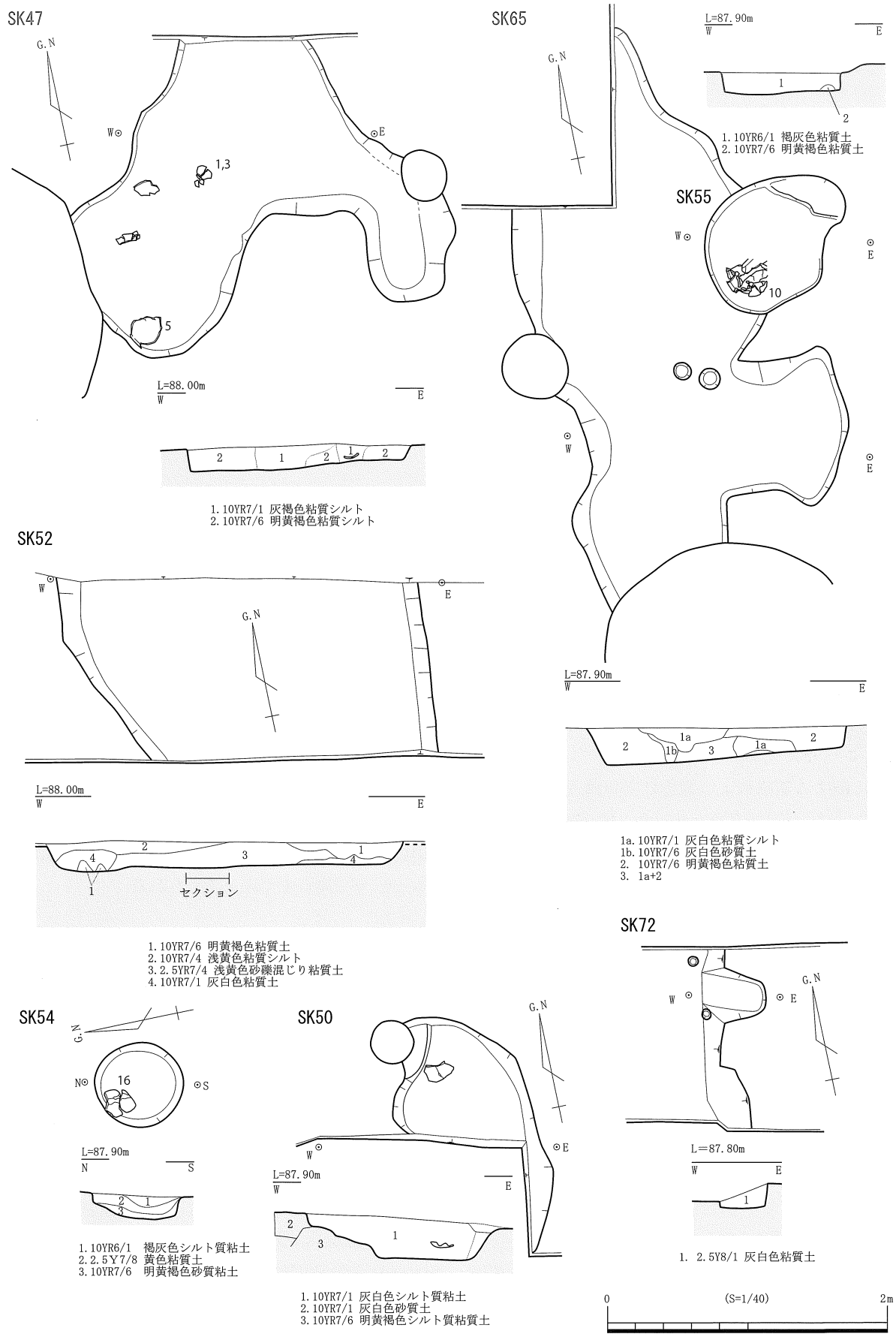
調査地の南東部に位置し，隅丸方形を呈する土坑であるが，西側は削平を受け，詳細な形態は不明である。現存する長さは46cm，幅38cmである。埋土は灰白色粘質土で，深度は18cmである。出土遺物（６）は弥生土器の甕形土器の頸部で，時期は限定できないが，後期後半と考えられる。

SK82（第６・７図）

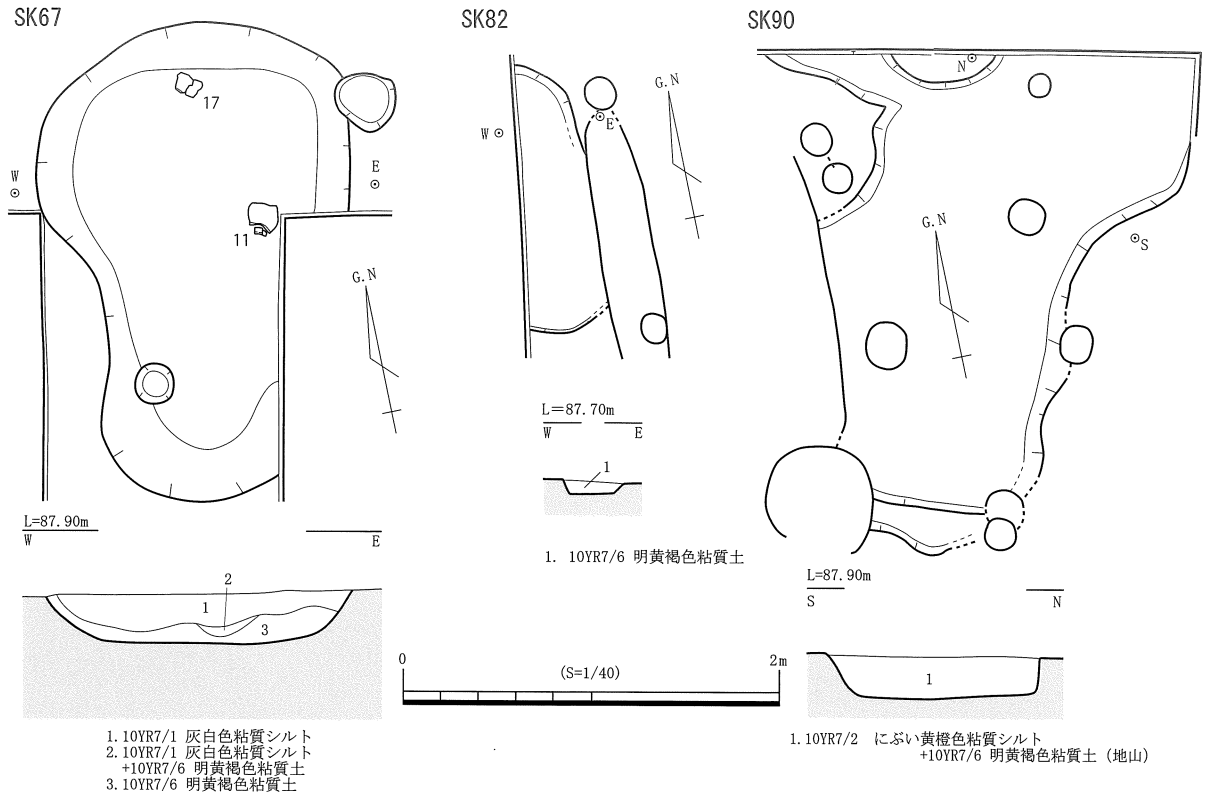
調査区北東部に位置し，やや不整な楕円形を呈し，楕円形を呈する土坑に切られている。最大長130cm，幅38cmである。深度は8cmで，埋土は灰白色シルト質粘土である。出土遺物(12)は弥生土器の甕形土器で，時期は弥生時代後期後半と考えられる。

SK90（第６・７図）

調査区北東部に位置し，非常に歪な形態を呈し，西側は多くの遺構に切られており，本来の遺構の形態が不明である。最大長266cm，幅120～230cmである。深度は20cmで，埋土はにぶい黄橙色粘質シルトに明黄褐色粘質土を含む。出土遺物(18)は弥生土器の底部で，時期は限定できないが，後期後半と考えられる。



第５図　SK47・50・52・54・55・65・72 平・断面図 (S=1/40)



第６図　SK67・76・82・90 平・断面図（S=1/40）

２　古代の遺構と遺物

古代に属する遺構および遺物は条里跡を示す溝のみで，それ以外には認められなかった。表土掘削時にも古代の遺物はほとんど採取されておらず，条里地割の施工後の土地利用については明確ではない。生活痕跡が認められないことを考えると，生産地としての利用が想定される。

SD20（第８・９図）

調査区西部に位置し，確認された範囲で全長 234m，幅 102 ～ 192cm で，深度は 42 ～ 50cm で，条里地割と合致する溝で，北流する。開削時期は不明であるが，最下層から須恵器皿（第９図）が出土しており，平安時代頃までは維持管理がなされ，現状で確認できる掘り方で機能していたものと考えられる。埋土中には遺物を多く含まないため，埋積過程は不明瞭であるが，砂が集中するところがあり，その後，少しずつ埋没しながら利用が継続されたものと考えられる。

北側の一部は近世の遺構に壊されており，その頃には埋まってしまっていたと考えられるが，西側には隣接して現在の水路があるとともに，調査地の最西側では擁壁下に石積みが確認でき，近世には西側に付け替えられ，再整備されたと考えられる。その後，改修がさらに行われ，現在に至ると考えられる。

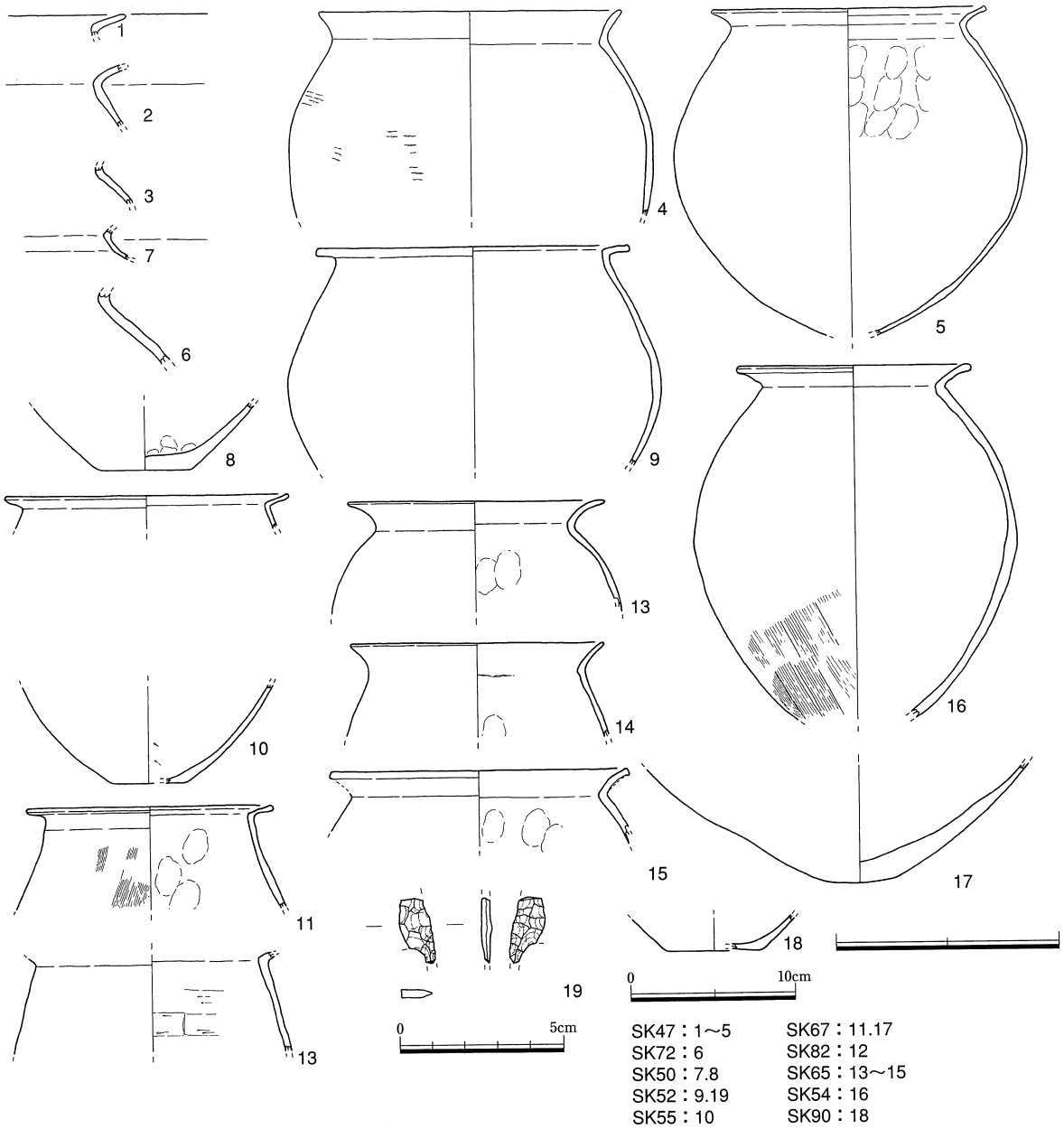
出土遺物 (20 ～ 21) は須恵器皿で，時期は限定できないが，平安時代前半期と考えられる。

３　中世の遺構と遺物

中世の遺構および遺物は既述のとおり，多量に認められ，その多くは建物の存在を示す柱穴である。切り合いの認められるものもあり，建て替え等が想定される。

掘立柱建物および柵列（第 10・13 図）

多数の柱穴および柱列を調査段階に確認したが，調査範囲が限定されていることから，トレンチ内の柱穴が柵なのか建物なのかの判断はできていない。その中で，南北方向に柱列が確認できたのは中央より東側に２列，西側に２列（SA18,22）であり，調査区の南側では東西方向に並ぶ２列の柱列が確認できる。いずれも柱筋の通りが悪く，対応関係が明確でないため，今回の調査では厳密な判断ができていない。ただし，埋土等の状況からも



第７図　弥生時代の遺構出土遺物（S=1/2：19、1/4：その他）

同一時期のものと考えられ，切り合いなどもあることから柵列および建物が一定期間あった可能性が高い。これらの柱列の評価については今後の調査を待ちたい。なお，建物を構成すると考えられる柱穴から出土した遺物は次項の柱穴の方でまとめて記述している。

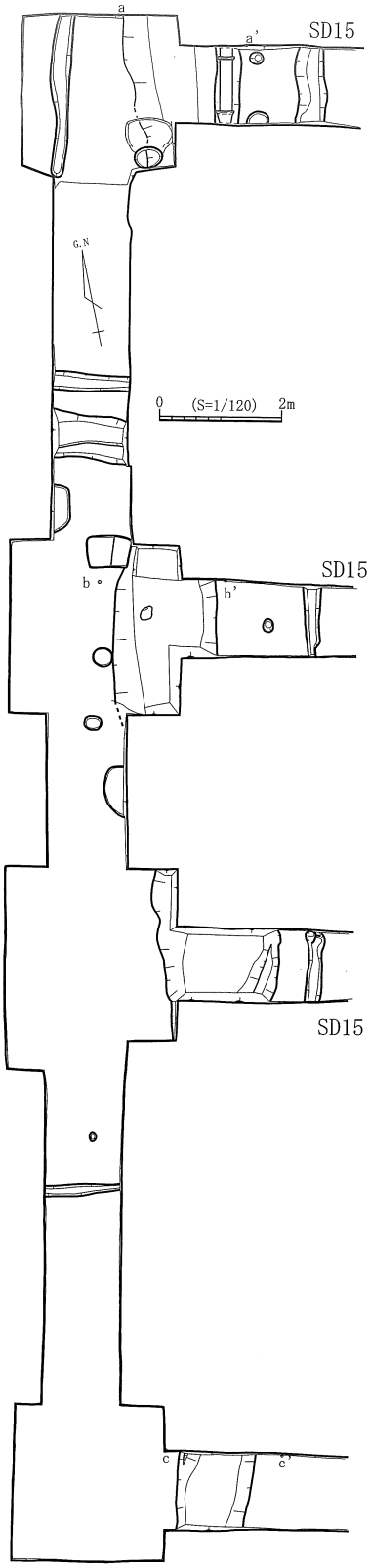
出土遺物 (22 ～ 24) は須恵質土器椀，土師質土器椀もしくは杯で，13 世紀後半前後と考えられる。

SP 7（第 11・13 図）

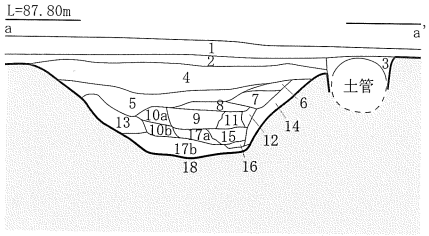
調査地の北西部に位置し，長軸 46cm，短軸 36cm の楕円形を呈するピットである。深さは 73cm で，埋土は褐灰色シルト質土である。出土遺物 (26, 47, 50 ～ 53) は土師質土器小皿，青磁碗，壁土状の土製品で，時期は限定できなが，12 世紀後半と考えられる。

SP35（第 11・13 図）

調査地の中央部北側に位置し，直径 24cm の円形を呈するピットである。深さは 42cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (27, 48) は土師質土器小皿，同安窯系青磁の碗もしくは皿で，12 世紀後半である。

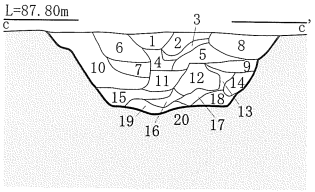


北端



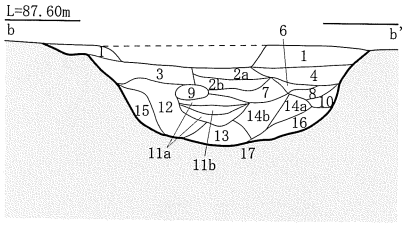
1. 7.5YR6/1 褐灰色シルト質土（褐鉄鉱含む）
2. 7.5YR6/1 褐灰色シルト質土（褐鉄鉱含む）
3. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト質砂
4. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土（褐鉄鉱含む）
5. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土
6. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト質砂
7. 10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂
8. 10YR6/6 明黄褐色砂
9. 10YR6/6 明黄褐色粗砂
10a. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト
10b. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト
11. 10YR5/1 褐灰色シルト質砂 +10YR6/6 明黄褐色砂
12. 10YR5/1 褐灰色シルト質粘土
13. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土
14. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土 +18 層ブロック含む
15. 10YR5/1 褐灰色シルト質土
16. 10YR5/1 褐灰色シルト
17a. 10YR6/6 明黄褐色砂
17b. 10YR5/1 褐灰色砂
18. 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土

南端



1. 10YR6/6 明黄褐色シルト
2. 10YR6/2 灰黄褐色砂
3. 10YR6/6 明黄褐色粗砂
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
5. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
+10YR5/1 褐灰色シルト
6. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土
7. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土
(10YR7/2 にぶい黄橙色シルト)
8. 10YR6/1 褐灰色シルト質粘土
9. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
10. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土
11. 10YR6/6 明黄褐色粗砂
12. 10YR6/6 明黄褐色砂
13. 10YR6/6 明黄褐色砂
+10YR7/2 にぶい黄橙色シルト
14. 10YR5/1 褐灰色シルト
15. 7.5YR5/1 褐灰色シルト
16. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
17. 10YR6/6 明黄褐色砂
18. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質砂
19. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂
20. 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土

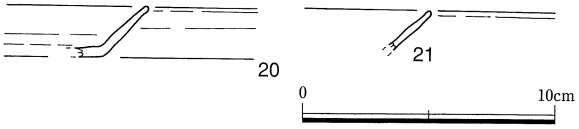
北から２つ目



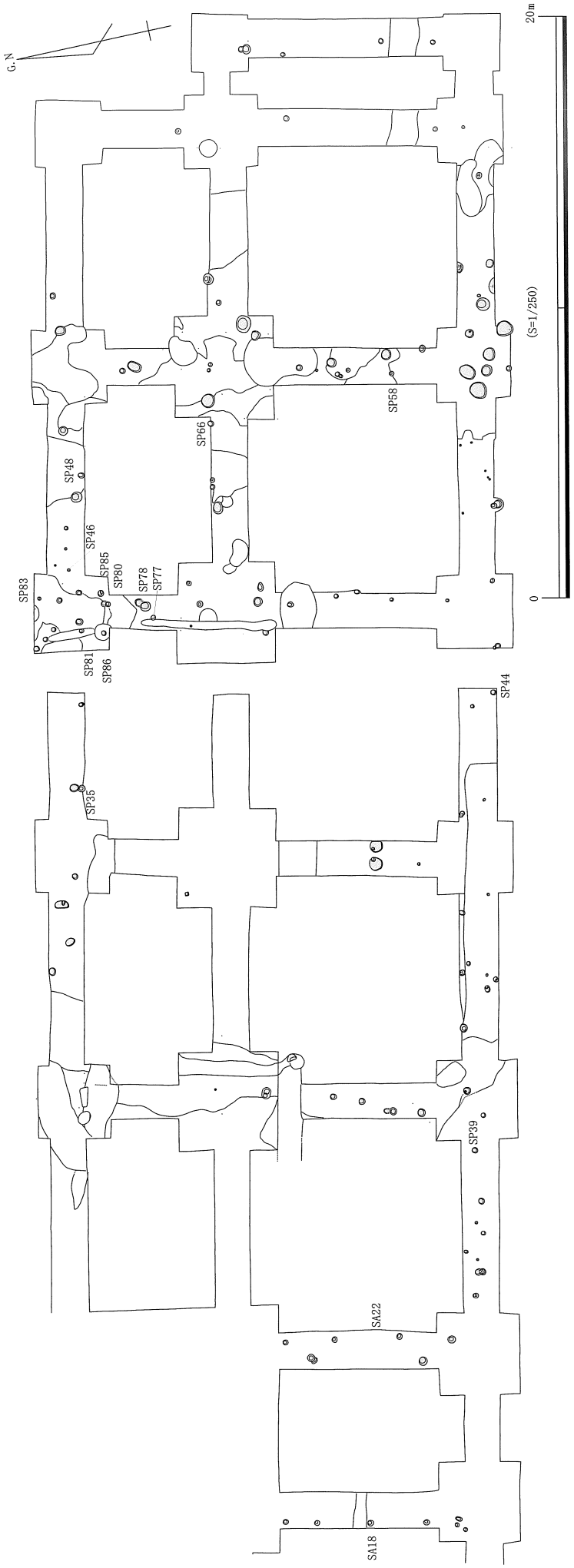
1. 7.5YR6/1 褐灰色シルト質土（褐鉄鋼含む）
2a. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト
2b. 10YR6/6 明黄褐色砂
3. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土
(10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土）地山ブロック含む
4. 10YR6/6 明黄褐色砂 +10YR7/1 褐灰色シルト質土
6. 10YR6/1 褐灰色粘質土
7. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト
8. 10YR6/1 褐灰色シルト質土
9. 10YR6/6 明黄褐色粗砂
10. 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土
11a. 10YR6/6 明黄褐色砂
11b. 10YR6/6 明黄褐色粗砂
12. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土
13. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト
14a. 10YR6/2 灰黄褐色シルト
+10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土
14b. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト
15. 7.5YR5/1 褐灰色シルト質粘土
(10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土）地山ブロック含む
16. 10YR6/2 灰黄褐色シルト
17. 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土

0 (S=1/40) 2m

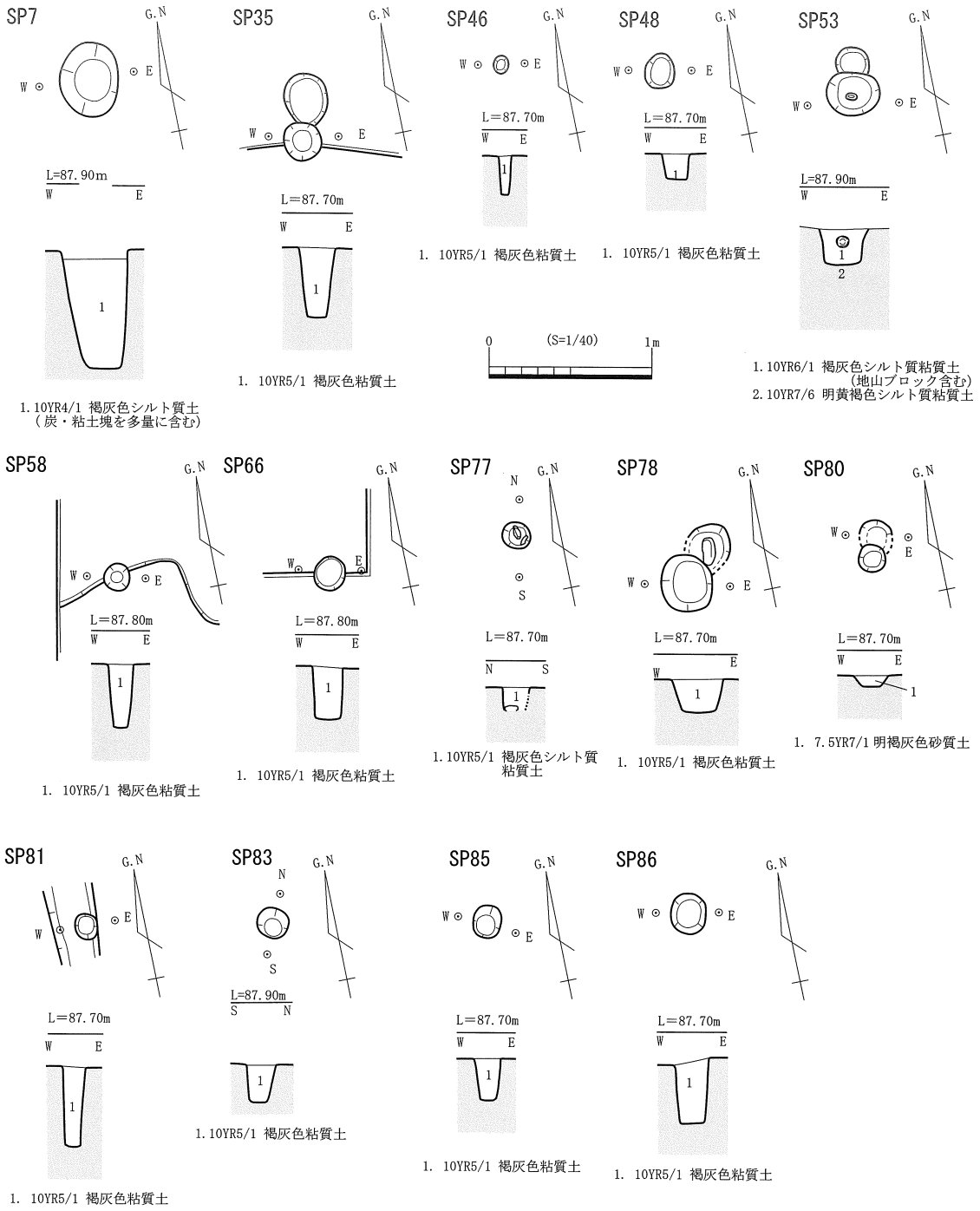
第８図　SD20 平・断面図（平面図 S=1/120，断面図：S=1/40）



第９図　SD20 出土遺物（S=1/3）



第１０図　掘立柱建物および柵列に伴う柱列平面図（S= １／２００）



第 11 図　SP 7・35・46・48・53・58・66・77・78・80・81・83・85・86 平・断面図（S= 1 /40）

SP53（第 11・13 図）

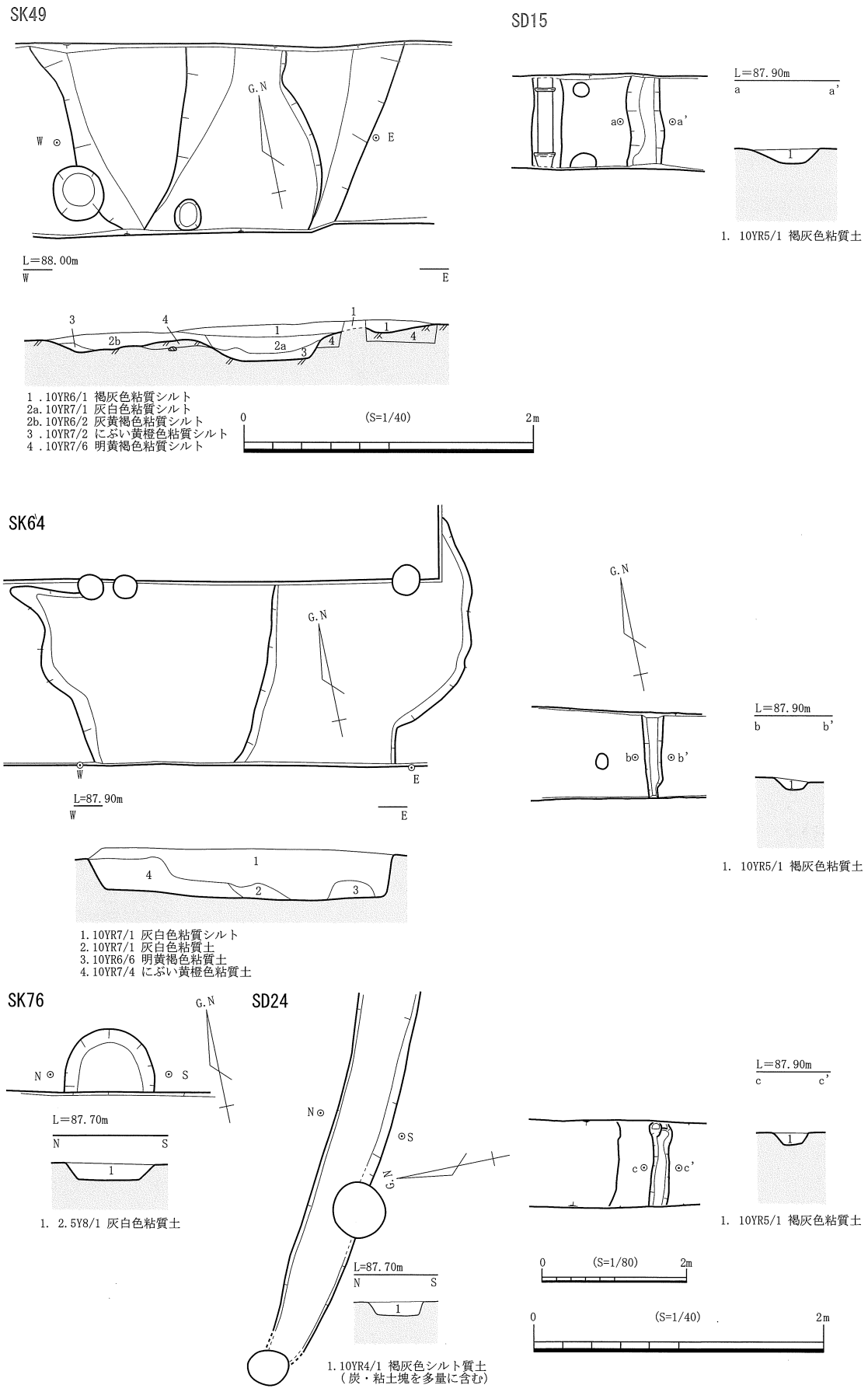
調査地の東部に位置し，長軸 34cm，短軸 28cm の楕円形を呈するピットである。深さは 22cm で，埋土は褐灰色シルト質粘質土である。出土遺物 (28) は土師質土器小皿で，時期は 13 世紀後半である。

SP46（第 11・13 図）

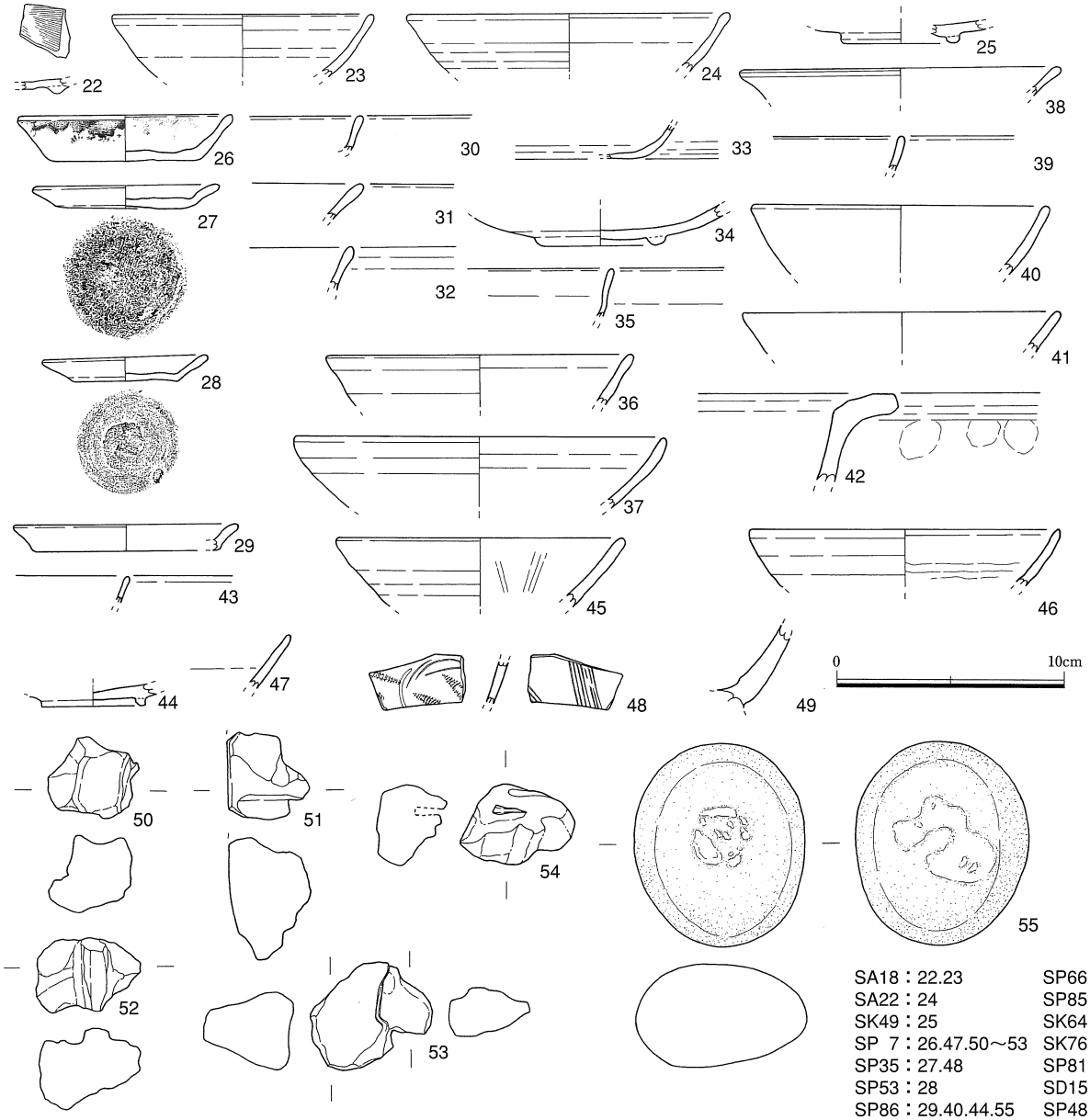
調査地の北東部に位置し，直径 10cm の円形を呈するピットである。深さは 24cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (34) は土師質土器椀で，中世前半と考えられる。

SP48（第 11・13 図）

調査地の北東部に位置し，長軸 23cm，短軸 18cm の楕円形を呈するピットである。深さは 16cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (45) は須恵質土器杯もしくは椀で，時期は限定できないが，中世前半と考えられる。



第12図　SK49・64・76，SD15・24平・断面図（S= 1/40，1/80）



SA18：22.23
SA22：24
SK49：25
SP 7：26.47.50～53
SP35：27.48
SP53：28
SP86：29.40.44.55
SP77：30.42
SP80：31.33
SP83：32
SP46：34
SP66：35
SP85：36.37
SK64：38
SK76：39
SP81：41
SD15：43
SP48：45
SP78：46
SD24：49
SP58：54

第 13 図　SK・SD・SP 出土遺物（S=1/3）

SP58（第 11・13 図）

調査地の北東部に位置し，直径 15cm の円形を呈するピットである。深さは 40cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (54) は土壁状の土製品で，時期は限定できない。

SP66（第 11・13 図）

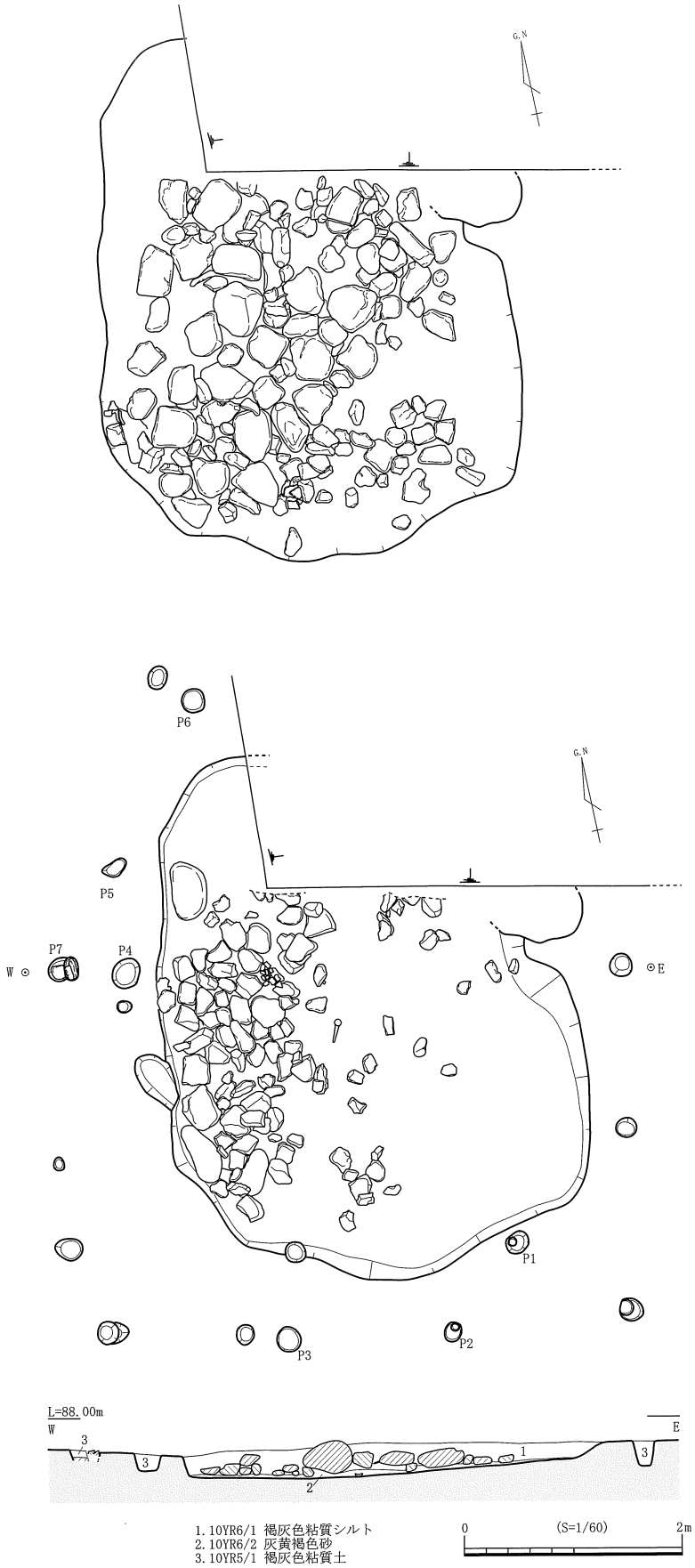
調査地の北東部中央に位置し，直径 16cm の円形を呈するピットである。深さは 32cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (35) は土師質土器椀で，時期は限定できない。

SP77（第 11・13 図）

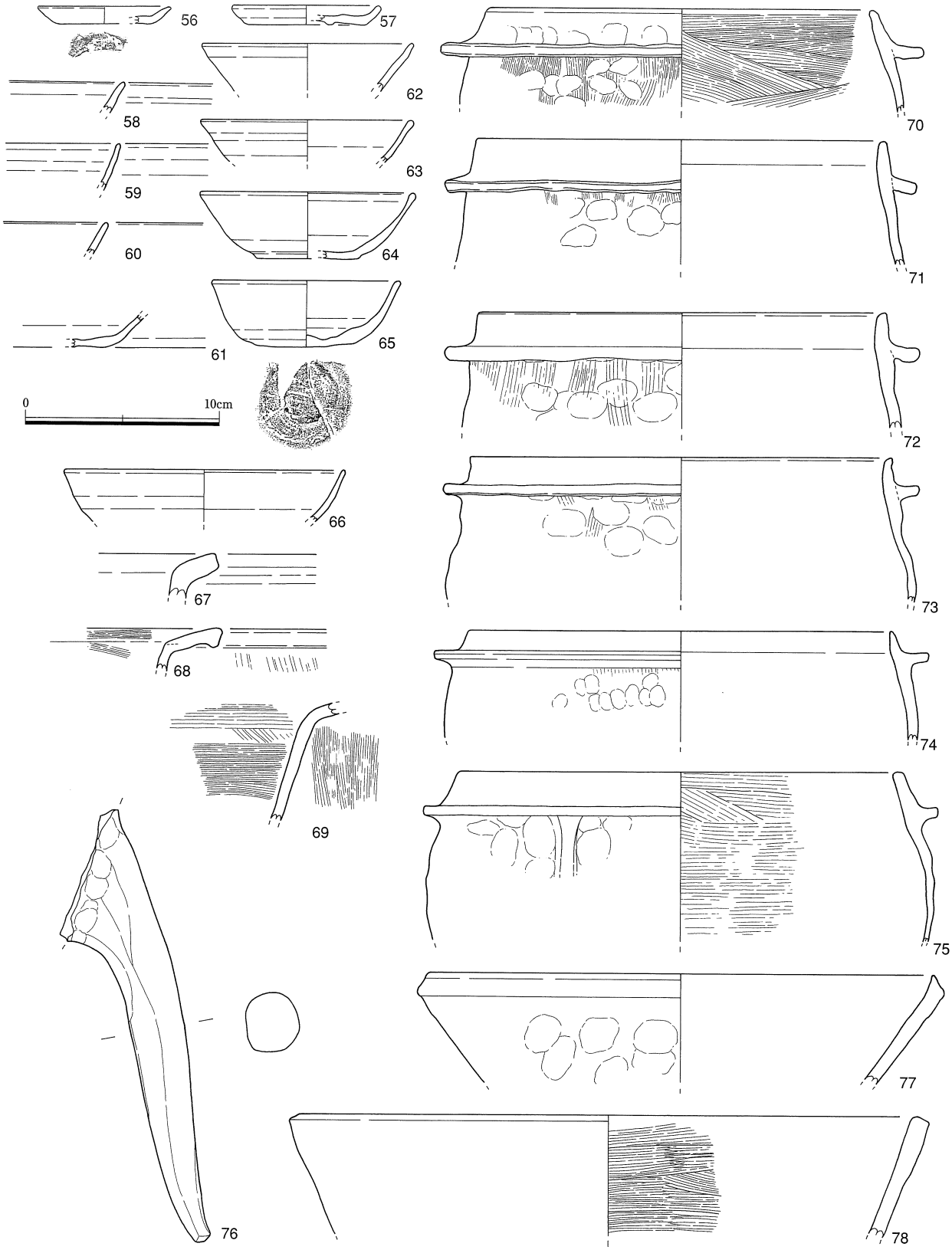
調査地の北東部に位置し，直径 18cm の円形を呈するピットである。深さは 16cm で，埋土は褐灰色シルト質粘質土である。出土遺物 (30, 42) は土師質土器小皿と鍋で，13 世紀代と考えられる。

SP80（第 11・13 図）

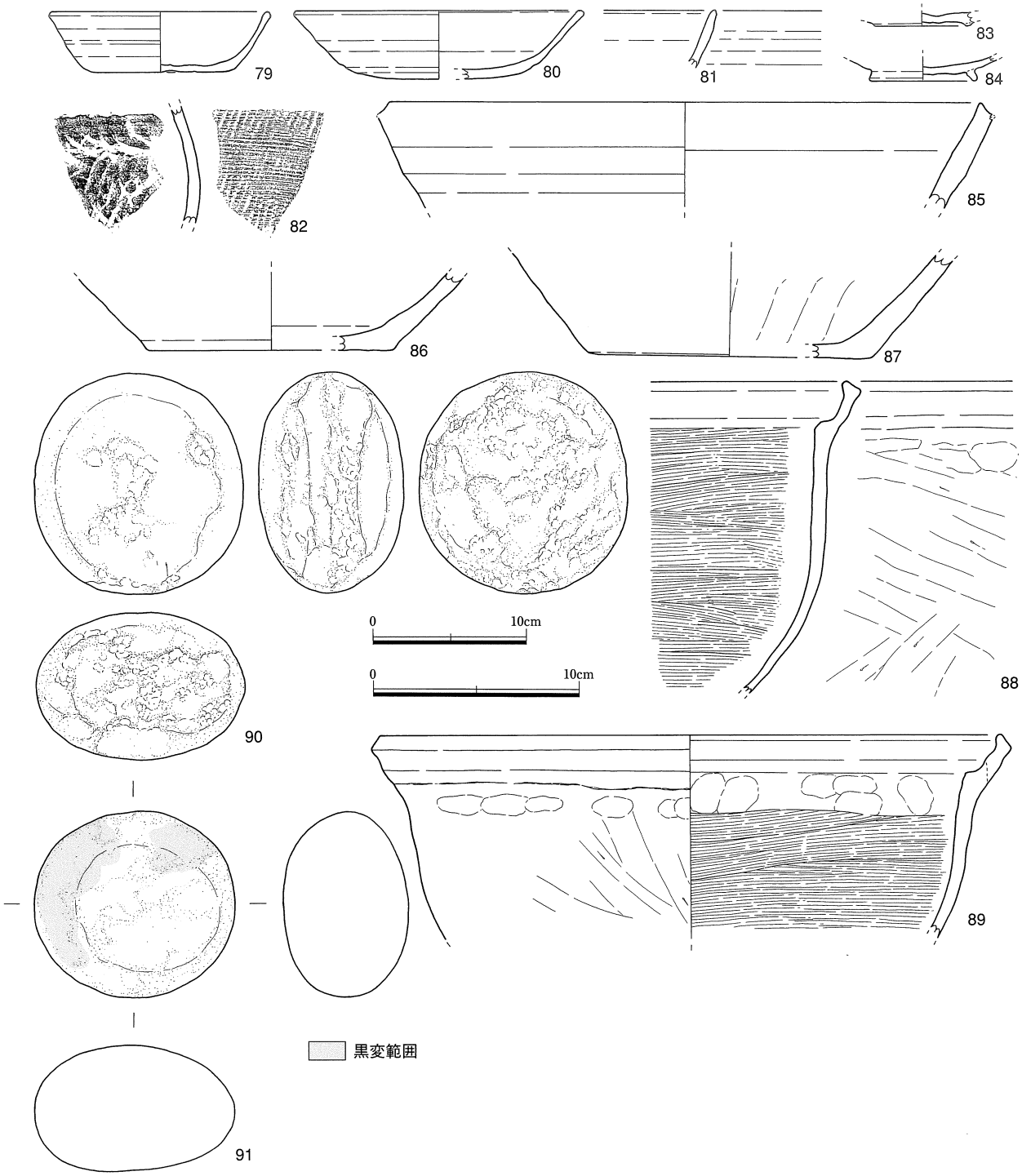
調査地の北東部に位置し，直径 18cm の円形を呈するピットである。深さは 6 cm で，埋土は明褐灰色砂質土である。出土遺物 (31, 33) は土師質土器小皿で，時期は限定できない。



第 14 図　SX60 平・断面図（S=1/60）



第 15 図　SX60 出土遺物①（S= 1 /3）



第 16 図　SX60 出土遺物②（S= 1 /3:79 ～ 87，1 /4:88 ～ 91）

SP86（第 11・13 図）

調査地の北東部に位置し，長軸 36cm，短軸 20cm の楕円形を呈するピットである。深さは 40cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (29, 40, 44, 55) は須恵質土器椀，土師質土器小皿，石製品で，時期は限定できないが，中世前半と考えられる。

SP78（第 11・13 図）

調査地の北東部に位置し，最大幅 36cm でやや歪な円形を呈するピットである。深さは 20cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (46) は須恵質土器椀で，時期は限定できないが，中世前半と考えられる。

SP81（第 11・13 図）

調査地の北東部に位置し，最大幅 16cm でやや歪な円形を呈するピットである。深さは 48cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (41) は土師質土器椀もしくは杯で，時期は限定できない。

SP83（第 11・13 図）

調査地の北東部に位置し，長軸 20cm，短軸 18cm の楕円形を呈するピットである。深さは 23cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (32) は土師質土器小皿で，時期は限定できない。

SP85（第 11・13 図）

調査地の北東部に位置し，長軸 20cm，短軸 16cm の楕円形を呈するピットである。深さは 26cm で，埋土は褐灰色粘質土である。出土遺物 (36・37) は土師質土器杯で，時期は限定できない。

SK49（第 12・13 図）

調査地の北東部に位置し，調査区外へと延びるため，詳細は不明であるが大型の土坑で，幅 150 ～ 242cm，深度は 24cm である。SK50 を切る。埋土は 3 層に区分でき，上層から褐灰色粘質土，灰白色粘質シルト，にぶい黄褐色粘質シルトである。出土遺物 (25) は土師質土器底部で，13 世紀後半と考えられる。

SK64（第 12・13 図）

調査地の東部中央に位置し，調査区外へと延びるため，詳細は不明である。東に向かって一段下がる。埋土は大きく 4 つに分けられるが，地山起源のにぶい黄橙色粘質土が堆積した後，灰白色粘質シルトが堆積している。出土遺物 (38) は須恵質土器椀で，時期は限定できない。

SK76（第 12・13 図）

調査区東部中央に位置し，西側を切られているが，直径 60cm の円形を呈する土坑と考えられる。深度は 12cm で，埋土は灰白色粘質土である。出土遺物 (39) は土師質土器椀で，時期は限定できない。

SD15（第 12・13 図）

調査地の北西部に位置し，南北に走る幅 10 ～ 40cm の溝で，深度は 10cm である。SD20 と並走するが，最南端では確認されていないため，調査区外の区画から発して南へと延びるものと考えられる。出土遺物 (43) は須恵質土器口縁部で，時期は限定できない。

SD24（第 12・13 図）

調査地北西部に位置し，東西方向に延びる溝で，現状で長さ 2.6m，幅 26 ～ 42cm である。深度は 10cm と浅い。埋土は褐灰色シルト質土である。出土遺物 (49) は龍泉窯系青磁皿で，13 世紀後半と考えられる。

SX60（第 14 ～ 16 図）

調査地の北東部に位置し，隅丸方形を呈する最大幅 380 cm，深さ 30cm の大型の掘り方をもち，中には平たい円礫を敷き並べたような状況を呈する。深さによって 2 ～ 3 段となるが，下層に比較的小さめの石を敷き並べ，上面は大型の円礫で平坦面を形成するように敷き並べている。当初は石組みの井戸を想定していたが，既述のとおり掘り方が浅く，円礫が敷き並べて，水を溜めるというよりは水はけを良くする構造であることが明らかとなった。また，周辺には方形を呈するように柱穴が並ぶことからも屋根を持った施設であることは間違いない。また，円礫の中からは多数の土器片も出土した。

以上のことから，上屋をもつ土器などを使用する場であったと考えられる。遺構は調査区外へと延びるため，全容を明らかにすることはできないが，調査区外には井戸のような取水施設があり，それに附属する施設で，生活用具や食物などを洗ったりする場であったと考えられる。

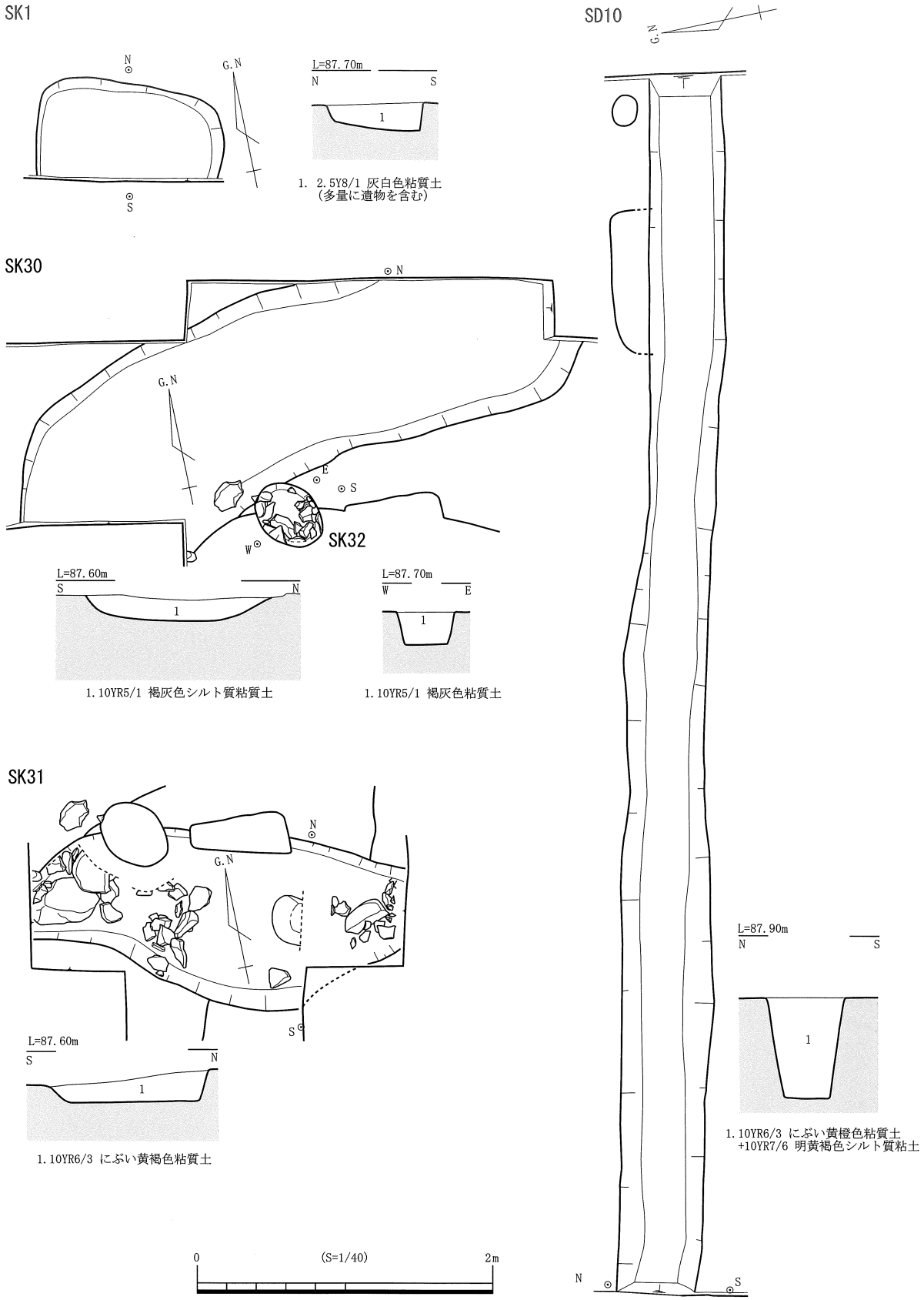
出土遺物 (56 ～ 91) は須恵器，須恵質土器，土師質土器，石製品などが出土しており，日常雑器類が一通り出土している。時期は 14 世紀前葉である。

4　近世の遺構と遺物

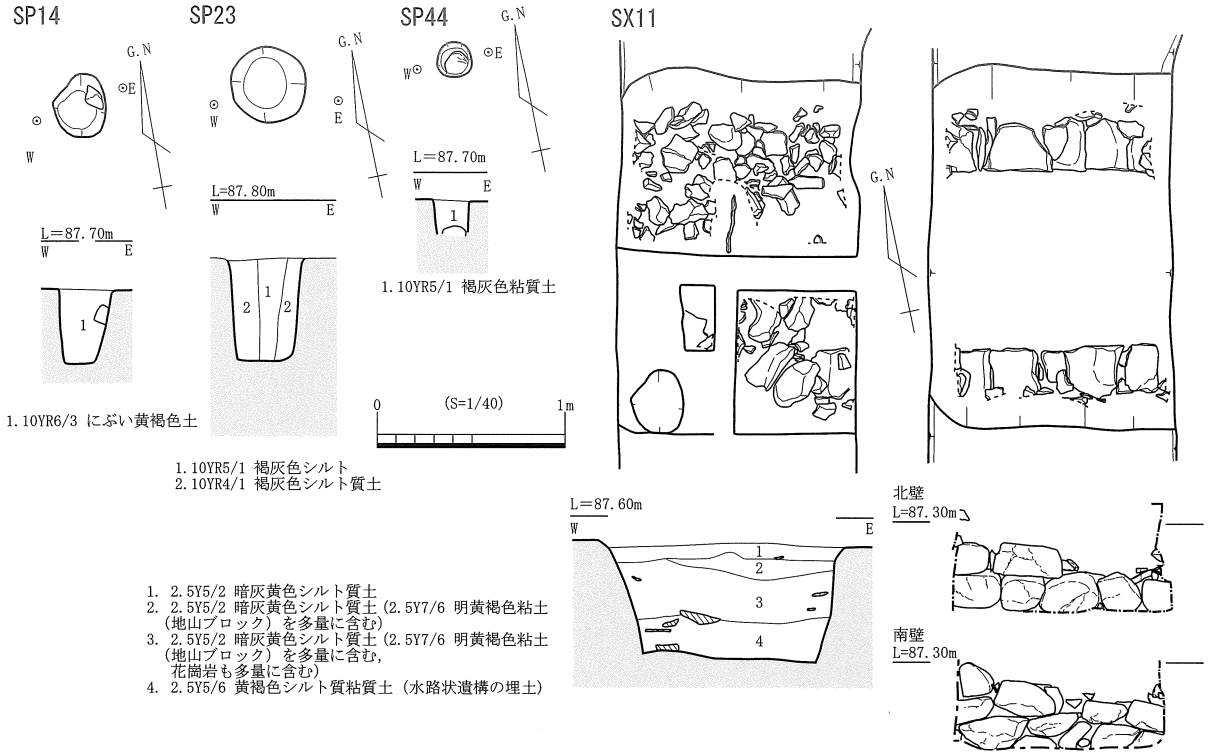
近世の遺構は北西部に集中的に分布しており，多くは近世末から近代にかけてのものが主体をしめる。既述のとおり，埋土は灰白色を呈し，非常に粘質の強い土であった。

SK 1（第 17・19・20・21 図）

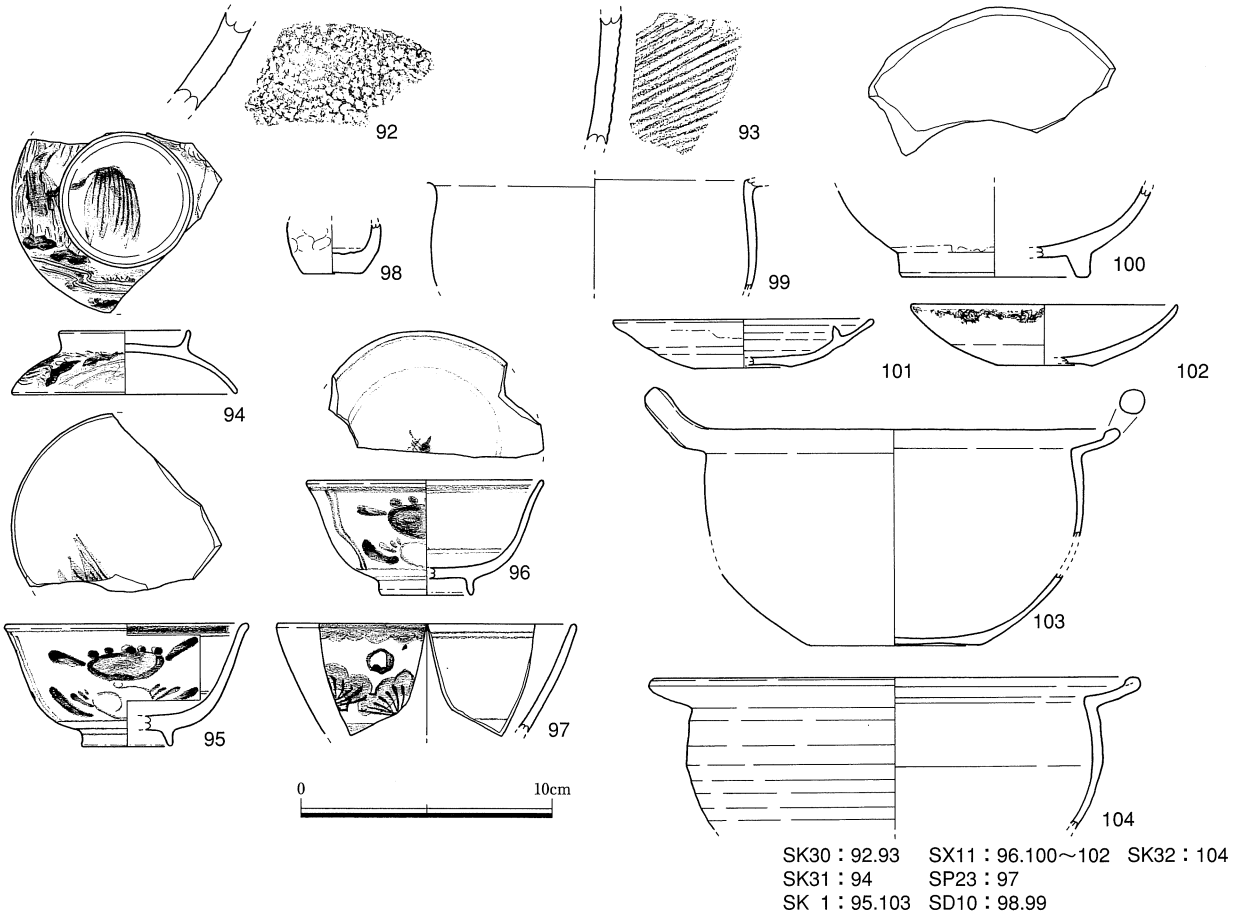
調査地の北西部に位置し，長軸 128cm，短軸 56cm の隅丸方形を呈する土坑である。埋土は灰白色粘質土で，深度は 20cm である。調査区外へと延びる。出土遺物 (95，103，118，125，128，129，133，137 ～ 142，144) は土師質土器，陶器，磁器，軒丸瓦，丸瓦，平瓦，隅瓦，桟瓦で，時期は 18 世紀後半から 19 世紀



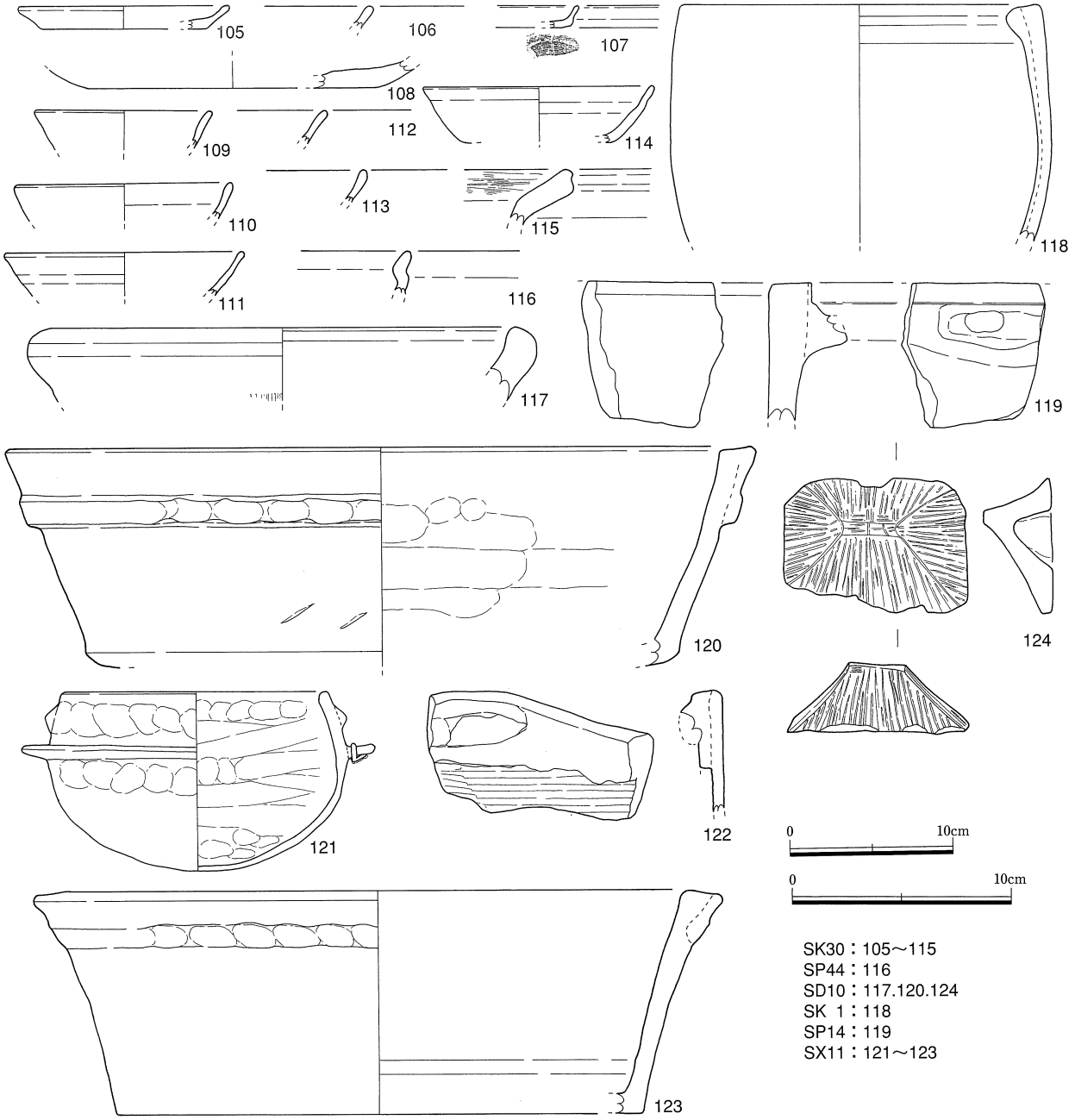
第 17 図　SK1・30・31・32，SD10 平・断面図（S=1/40）



第 18 図　SP14・23・44，SX11 平・断面図（S=1/40）



第 19 図　近世遺構出土遺物①（S=1/3）



第 20 図　近世遺構出土遺物②（S=1/3:105 ～ 116, 118, 1/4:117, 119 ～ 124）

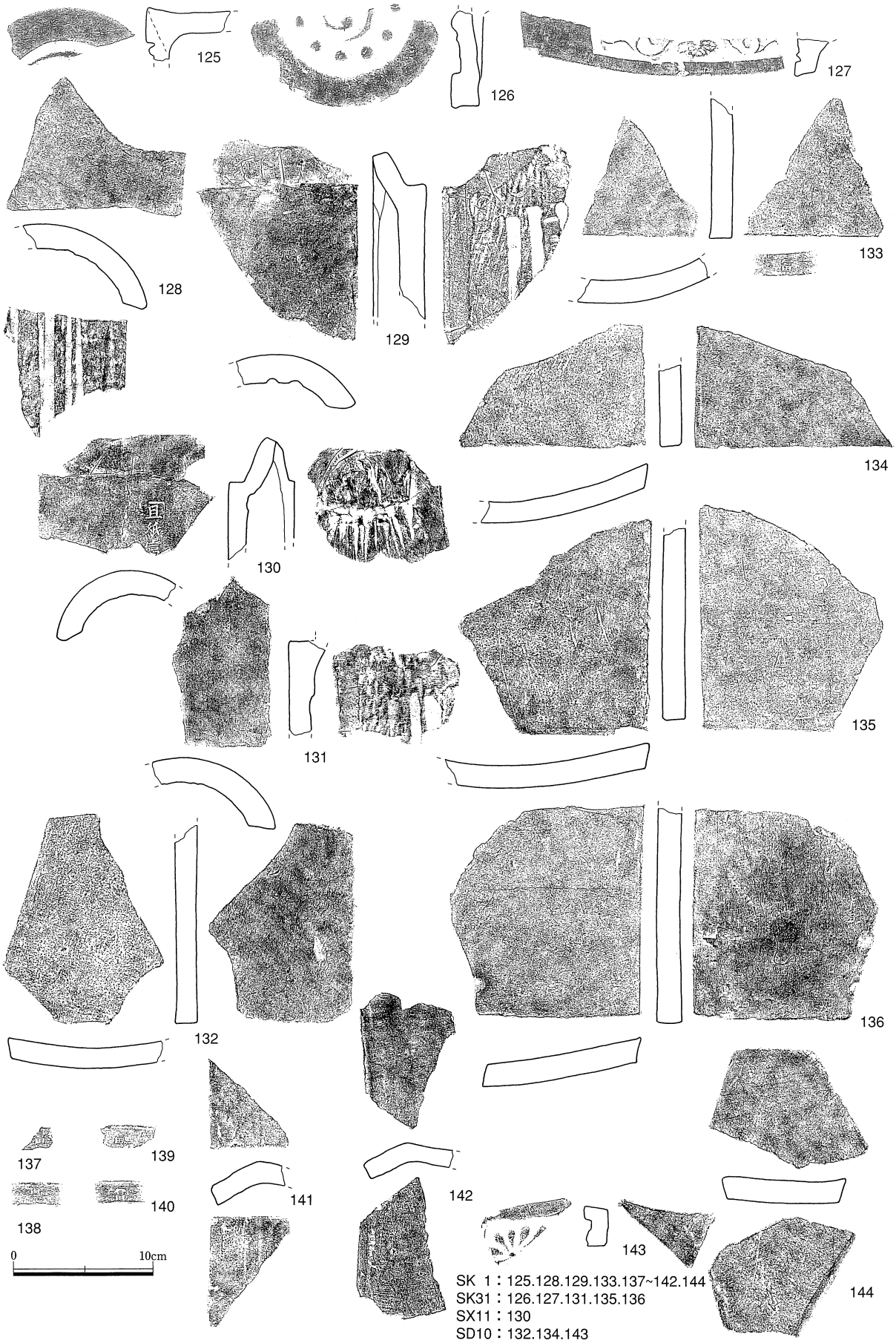
と考えられる。

SK30（第 17・19・20 図）

調査地の中央部北側に位置し，溝状に東西方向に延びる隅丸方形の土坑で，長軸 400cm，短軸 124cm である。SK32 に切られている。埋土は褐灰色シルト質粘質土で，深度は 14cm である。出土遺物 (92 ～ 93，105 ～ 115) は須恵質土器，土師質土器で，時期は限定できない。

SK32（第 17・19・20・21 図）

調査地の中央部北側に位置し，長軸 50cm，短軸 40cm の楕円形を呈する土坑である。深度は 20cm で，埋土は褐灰色粘質土で，礫や瓦を多量に含む。出土遺物 (104) は軟質施釉陶器鍋で，時期は 19 世紀と考えられる。



第 21 図　近世遺構出土遺物③（S=1/4）

SK31（第 17・19・21 図）

調査地の中央部北側に位置し，やや蛇行する土坑で，確認できる最大長 256cm，幅 120cm である。深度は 20cm で，埋土はにぶい黄褐色粘質土で，砂岩の円礫や花崗岩の小礫，瓦などを多量に含む。SK32 に切られている。出土遺物 (94, 126, 127, 131, 135, 136) は磁器，軒丸瓦，丸瓦，平瓦で，19 世紀代と考えられる。

SD10（第 17・19・20・21 図）

調査地北西部に位置し，東西方向に走る溝で，幅 44 ～ 64cm，調査地では 16m に及ぶ。掘り方は逆台形を呈し，深度は 70cm と，非常に深い。埋土は地山起源のにぶい黄橙色粘質土に明黄褐色シルト質粘土が混ざる単層で，一度に埋め戻されているものと考えられる。出土遺物 (98,99,117,120,124,132,134,143) は土師質土器，陶器，平瓦，練込瓦で，時期は 19 世紀代と考えられる。

SP14（第 18・20 図）

調査地の北西部に位置し，最大幅 34cm でやや歪な円形を呈するピットで，深さは 40cm である。埋土はにぶい黄褐色土。出土遺物 (119) は土師質土器井側で，時期は 19 世紀代と考えられる。

SP23（第 18・19 図）

調査地の北西部に位置し，直径 40cm で円形を呈するピットで，深さは 54cm である。埋土は褐灰色シルトで，柱痕跡が残る。出土遺物 (97) は磁器碗で，時期は 18 世紀後半以降と考えられる。

SP44（第 18・20 図）

調査地の南側中央部に位置し，直径 18cm で円形を呈するピットで，深さは 20cm である。埋土は褐灰色粘質土で，根石が認められる。出土遺物 (116) は土師質土器鉢で，時期は限定できない。

SX11（第 18・19・20・21 図）

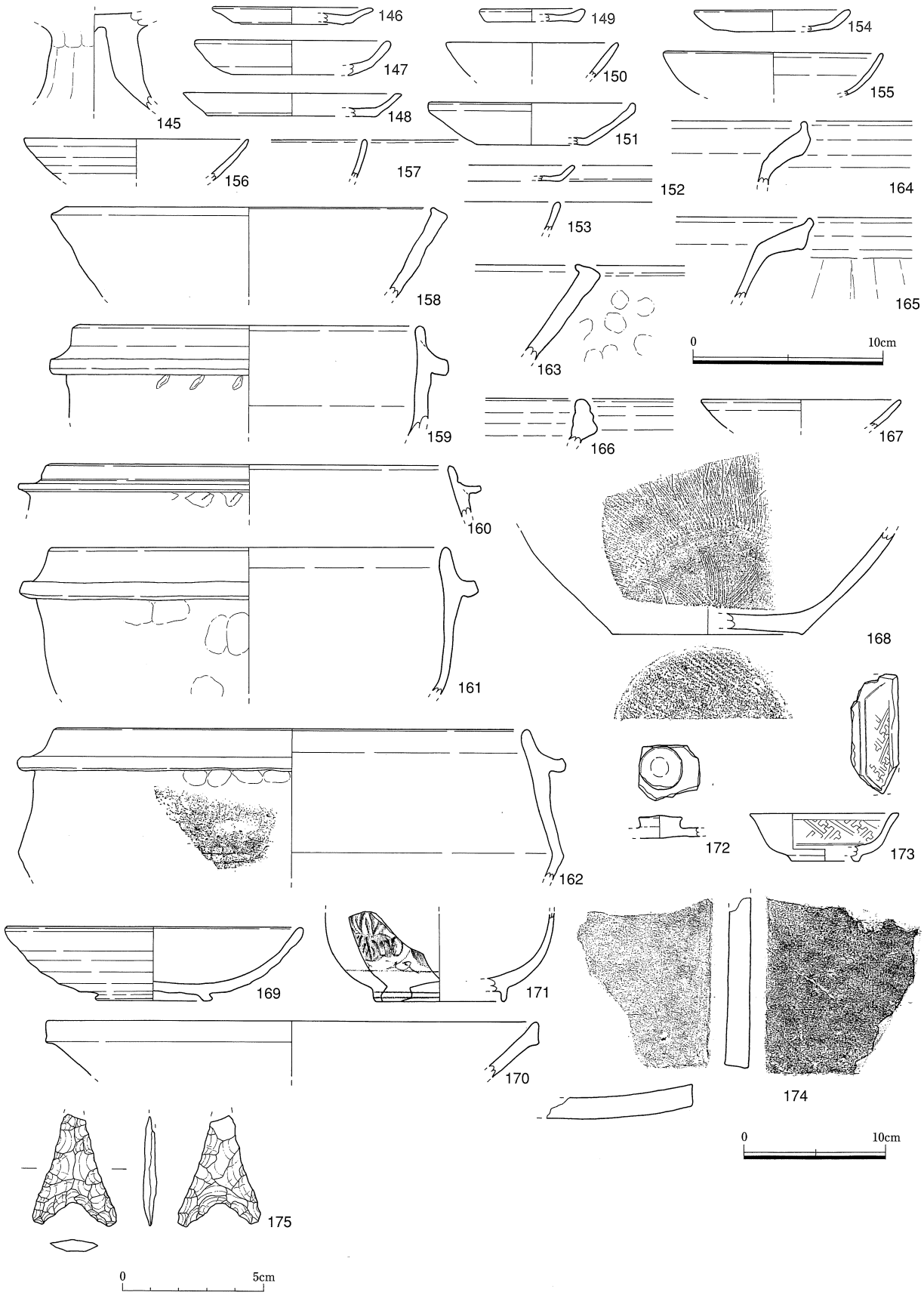
調査地の北西部に位置し，幅 190cm の方形の掘り方をもつ土坑状の施設である。掘り方が調査区外へとのび，検出時（第 18 図の上層検出状況）には瓦や花崗岩片などが多量に出土したため，ごみ穴のような廃棄遺構と考えられたが，その後，それらを撤去し，掘削を行った結果，大型の砂岩で南北にそれぞれ東西方向に石積みを設けた施設が確認された。また，湧水が著しく，調査区東側ではこの遺構の続きは確認されなかったため，取水施設と考えられる。このほかの遺構において，多量に湧水するような例はなく，地下水が集まりやすい箇所に設けられたと考えるのが妥当と思われるが，詳細は不明である。

深度は 60cm で，埋土は 4 層に分層でき，水平堆積している。上層から暗灰黄色シルト質土，地山ブロックを多量に含む明黄褐色粘土，花崗岩を多量に含む明黄褐色粘土，黄褐色シルト質粘質土である。第 4 層が，水路を埋め戻した際の土である。

出土遺物 (96, 100 ～ 102，121 ～ 123, 130) は土師質土器，京・信楽系陶器等，肥前系磁器，丸瓦で，設置時期は限定できないが、埋設は 19 世紀代と考えられる。

その他の出土遺物（第 22 図）

上記の遺構以外に，表土掘削時および遺構面検出時に第 22 図のような中世を中心とする遺物が敷地の北東部で顕著に出土した。これらの範囲の多くは今回の調査対象範囲からは外れているため，詳細は不明であるが遺構の存在は確認している。



第 22 図　その他の出土遺物 (S=1/2:175, 1/3:145 ～ 157, 159, 161 ～ 173, 1/4:158, 160, 174)

第４章　まとめ

当遺跡の調査について，簡潔にまとめ，今後の条里跡の調査に役立てたい。

【弥生時代】

今回の調査では弥生時代後期の集落跡に関連する遺構および遺物が確認された。周辺にも，冠纓神社遺跡や小田池西遺跡などが所在すること，比較的安定した地形であることからも集落が点在していたことが想定される。

【古代】

本調査地は，条里地割の呼称に従えば４条３里に位置する。条里を区画する溝以外に明瞭な遺構は確認しておらず，条里施工後の周辺の状況は判然としない。この条里に関しては高松平野の条里跡の概要が既に金田章裕氏（1999），丹羽佑一・山本英之両氏（1999）等によってまとめられている。本遺跡周辺は香川郡の南部に位置し，香東川の氾濫原となる範囲は施工が認められない。西側は小田池，南西から北西へと緩やかに傾斜していく丘陵部にも施工は認められない。条里の施工方位は東にほぼ10°振れており，高松平野で一般的な施工方位と同じであるものの，香東川東岸の条里の方向とやや合わない部分もある。条里地割の内部でも古川などの河川や旧地形（谷筋）の痕跡が認められる部分では地割が乱れる。

ただし，条里を区画する溝は既述のとおり平安時代（９世紀代）には溝が存在し，維持管理がなされていたことが明らかであるが，条里施工時期は今回の調査では不明確で，今後の課題である。

【中世】

今回の調査では中世前半の遺構および遺物を確認し，条里跡および周辺でも塚が多数所在しており，中世においてはかなり面的な土地利用がなされていたと考えられる。その中で，今回の調査では，建物遺構の存在や遺物の中には青磁や白磁などの輸入陶磁器などの稀少品が認められたことから，中世前半にこの地に有力人物がいたことが想定される。

本調査地周辺では中世後半の由佐氏の動向が注目される。由佐城跡は近世初頭の遺構が発掘調査によって明らかになっているが，南門という小字が残っていることも含めて，中世前半からの流れが今後注目される。

【近世】

近世末（幕末）から近代初頭にかけての遺構および遺物が確認できたが，その展開範囲も限られることから，現状では当時の状況を明確にすることはできないが，瓦葺の建物があったことは間違いない。また，刻印瓦の存在から，瓦は檀紙村から供給されていることを知ることができる。当時の瓦の生産・供給体制などを明らかにできる一資料である。

以上のように弥生時代以降，断続的に土地利用がなされているが，香東川の氾濫原を除けば，本遺跡が展開する範囲は河岸段丘上に位置し，非常に安定した土地であったと考えられる。ただし，記述のとおり，条里跡の地割が残る中にも古川等の河川の影響などによって地割が乱れている範囲があり，遺跡が所在している可能性は低いものと考えられる。土地は南西方向から北東方向に傾斜するように見えるが，県道44号線（円座香南線）付近が最も高く，多くの土地は北西方向に向かって傾斜しており，先の県道と最高部がずれるものは北東方向へも傾斜する。その意味では，西側の丘陵裾部とこの県道の間は大局的に見ればくぼ地を呈していると言えるかもしれない。

いずれにしても，これまでの調査数も少なく，周辺地域を把握できるデータはない。現状で把握できる遺跡に限っても，中世以降とされるものが多く，中世以降に土地利用が面的になされた可能性を想定しておきたい。

今回の調査ではそれ以前の遺構も確認できており，今後の地道な調査の蓄積が重要であることは言うまでもない。その一方で，土地が安定していることに加え，大規模な堆積作用が確認できないことから，早くから土地造成などが行われ，場所によって大きく削平を受けている可能性も想定できる。

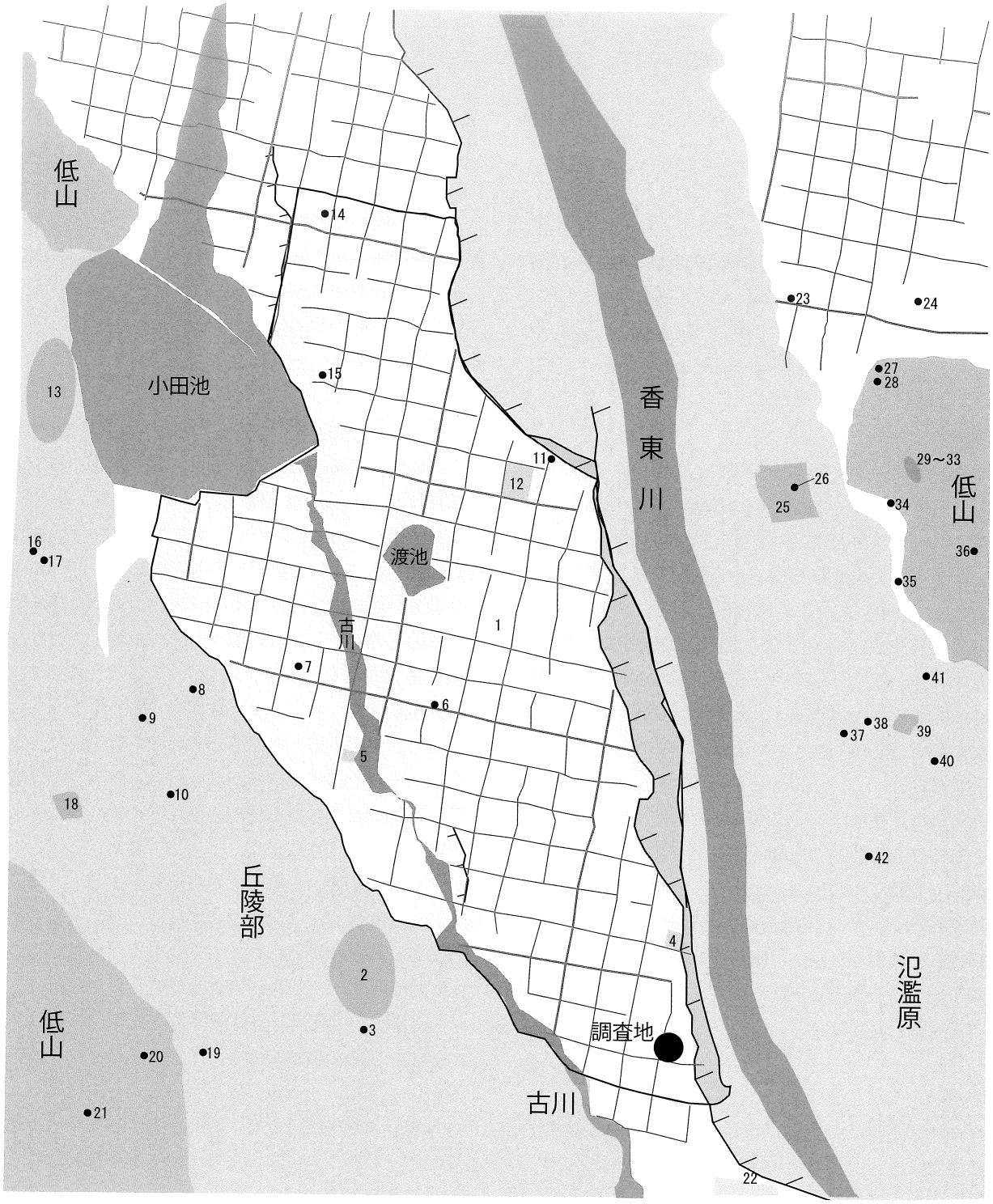
【主要参考文献】

金田章裕 1999「高松平野における条里地割の形成」『讃岐国弘福寺領の調査Ⅱ』高松市教育委員会

丹羽佑一・山本英之 1999「高松平野の発掘調査で検出された溝状遺構と推定条里地割との関係」『讃岐国弘福寺領の調査Ⅱ』高松市教育委員会

香南町教育委員会 1997『由佐城跡』

檀紙村誌研究会 1986『檀紙村誌』



第 23 図　条里跡周辺地形等

佐藤竜馬 2003「出土瓦の検討」『高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ』香川県教育委員会

No	遺跡名	時代	性格	No	遺跡名	時代	性格	No	遺跡名	時代	性格
1	条里跡	古代		15	中下の塚	中世	墓	29	龍満山古墳群１号墳	古墳	古墳
2	冠婴神社遺跡	弥生	集落	16	古田１号塚	中世	墓	30	龍満山古墳群２号墳	古墳	古墳
3	冠婴神社南の塚	中世	墓	17	古田２号塚	中世	墓	31	龍満山古墳群３号墳	古墳	古墳
4	由佐城跡	中世	城館	18	池内城跡	中世	城館	32	龍満山古墳群４号墳	古墳	古墳
5	横井城跡	中世	城館	19	茶園窯跡	古代	窯跡	33	龍満山古墳群５号墳	古墳	古墳
6	横井の塚	中世	墓	20	大坪窯跡	古代	窯跡	34	配石	-	-
7	宝三地の塚	中世	墓	21	大坪古墳	古墳	古墳	35	配石	-	-
8	尾崎塚	中世	墓	22	岡館跡	中世	城館	36	横岡山古墳	古墳	古墳
9	城１号塚	中世	墓	23	臼井の塚	中世	墓	37	安倍清明の墓	中世	墓
10	城２号塚	中世	墓	24	山下墳墓	弥生	墓	38	五輪塔	中世	墓
11	佐賀神社古墳	古墳	古墳	25	龍満城跡	中世	城館	39	乾城跡	中世	城館
12	吉光城跡	中世	城館	26	五輪塔	中世	墓	40	五輪塔	中世	墓
13	小田池西遺跡	弥生	集落	27	配石	-	-	41	五輪塔	中世	墓
14	若宮神社古墳	古墳	古墳	28	剣山古墳	古墳	古墳	42	荒神	中世	墓

第３表　出土遺物観察表

（）は復元値

No	調査区	出土遺構	遺物番号	種類	器種	型式	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	色調1 (胎土)	色調2 (釉薬，内外色調)	調整	焼成	備考
1	第7トレンチ	SK47 No.1	R-4	弥生土器	(甕)口縁部	-	-	1.2+	-	やや粗 5mm以下の石英，長石含む		内外:7.5YR6/6橙色	内外:マメツ	良	
2	第7トレンチ	SK47	R-5	弥生土器	(甕)頸部	-	-	3.7+	-	粗 4mm以下の石英，長石含む		内外:7.5YR6/8橙色	内外:マメツ	良	
3	第7トレンチ	SK47 No.1	R-3	弥生土器	(甕)頸部	-	-	2.3+	-	やや粗 5mm以下の石英，長石含む		内外:7.5YR6/6橙色	内外:マメツ	良	
4	第7トレンチ	SK47 No.5	R-2	弥生土器	甕	-	(18.3)	12.4+	-	密 6mm以下の石英，長石含む		内:10YR8/4浅黄橙色 外:7.5YR7/4にぶい橙色	内:ナデ 外:ナデ，叩き	良	
5	第7トレンチ	SK47 No.4	R-1	弥生土器	甕	-	(16.4)	19.7+	-	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:10YR7/1灰白色 外:5YR8/4淡橙色	内:マメツ，剥離，指頭圧，篦削り 外:マメツ，剥離	良	
6	第9トレンチ	SK72	R-1	弥生土器	(甕)頸部	-	-	1.9+	-	密 1mm以下の石英，長石，赤色粒を含む		内:10YR8/4浅黄橙色 外:5YR6/6橙色	内:マメツ 外:ナデ，マメツ	良	外面体部に2次焼成痕
7	第7トレンチ	SK50	R-2	弥生土器	(甕)頸部	-	-	4.5+	-	粗		内外:7/5YR6/4にぶい橙色	内外:剥離	良	
8	第7トレンチ	SK50	R-1	弥生土器	底部	-	-	3.9+	(5.4)	粗 4mm以下の石英，長石含む		内:2.5Y8/4淡黄色 外:5Y5/1灰色	内:指頭圧 外:マメツ	良	
9	第8トレンチ	SK52	R-1	弥生土器	甕	-	(19.0)	13.3+	-	粗 5mm以下の石英，長石，角閃石含む		内:2.5Y7/1灰白色 外:10YR5/4にぶい黄褐色	内:マメツ 外:ナデ	良	
10	第8トレンチ	SK55	R-1	弥生土器	甕	-	(17.0)	8.0+	(4.0)	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内外:7.5YR5/6明褐色	内:マメツ，剥離，ナデ 外:マメツ，剥離，篦削り	良	
11	第8トレンチ	SK67	R-1	弥生土器	甕	-	(14.6)	6.25+	-	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:7.5YR6/3にぶい褐色 外:7.5YR6/4にぶい橙色	内:指頭圧 外:ナデ，ハケ目	良	
12	第7トレンチ	SK82	R-1	弥生土器	甕	-	-	6.0+	-	粗 5mm以下の石英，長石含む		内外:7.5YR6/6橙色	内:篦削り 外:マメツ	良	
13	第8トレンチ	SK65	R-1	弥生土器	甕	-	(15.4)	6.75+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		内外:5YR6/8橙色	内:マメツ，剥離，指頭圧 外:マメツ，剥離	良	
14	第8トレンチ	SK65	R-2	弥生土器	甕	-	(15.4)	5.65+	-	密 4mm以下の石英，長石含む		内:2.5Y7/1灰白色 外:7.5YR7/6橙色	内:剥離，ナデ，指頭圧 外:剥離	良	
15	第8トレンチ	SK65	R-3	弥生土器	甕	-	(17.9)	4.6+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		内:10YR8/2灰白色 外:10YR8/1灰白色	内:マメツ，指頭圧 外:ナデ	良	
16	第8トレンチ	SK54	R-1	弥生土器	甕	-	(14.0)	21.3+	-	粗 5mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:10YR7/4にぶい黄橙色 外:7.5YR7/3にぶい橙色	内:マメツ 外:ナデ，マメツ，縦ハケ	良	
17	第8トレンチ	SK67 土器状況	R-2	弥生土器	底部	-	-	7.1+	(4.2)	密 3mm以下の石英。長石含む		内:5YR8/2灰白色 外:5YR8/4淡橙色	内外:マメツ	良	
18	第7トレンチ	SK90	R-1	弥生土器	底部	-	-	2.2+	(5.6)	粗 5mm以下の石英，長石，赤色粒，角閃石含む		内:7.5YR5/6明褐色 外:10YR5/3にぶい黄褐色	内外:マメツ	不良	平底
19	第8トレンチ	SK52	R-2	石器	石鏃	-	長 (2.0)	幅 (1.1)	厚 0.3	サヌカイト					重さ　g
20	第1トレンチ	SD20-②(北PO)	R-1	須恵器	皿	-	-	2.0	-	密 微砂粒殆ど含まない		内外:N6/ 灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，ナデ	良	口縁端部に重ね焼きの痕跡
21	第1トレンチ	SD20-②(北PO)	R-2	須恵器	皿(口縁部)	-	-	2.1+	-	密 精良		内外:N6/ 灰色	内外:回転ナデ	良好	
22	第3トレンチ	SA18 P②	R-1	須恵質土器	(椀)底部	不明	-	0.7+	-	密 砂粒殆ど含まない		内:10YR6/1褐灰色 外:N8/ 灰白色	内:刷毛目 外:ナデ	良	高台貼付
23	第3トレンチ	SA18 P③	R-2	土師質土器	杯	在地?	(11.4)	2.8+	-	密 2mm以下の石英，長石，金雲母含む		内:10YR6/3にぶい黄褐色 外:7.5YR7/4にぶい橙色	内外:回転ナデ	良	
24	第3トレンチ	SA22 P①	R-1	土師質土器	杯	在地	(14.0)	2.6+	-	密 1mm以下の石英，長石を含む		内:7.5YR8/2灰白色 外:10YR8/2灰白色	内外：ナデ	良	
25	第7トレンチ	SK49	R-1	土師質土器	底部	在地?	-	1.0+	(5.2)	密 1mm以下の長石含む		内:5Y8/2灰白色 外:5Y8/2灰白色	内:ナデ 外:ナデ	良	高台貼付
26	第2トレンチ	SP7	R-5	土師質土器	皿	佐藤B Ⅰ-2	(9.4)	2.0	(5.9)	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:7.5YR8/6浅黄橙色 外:7.5YR8/6浅黄橙色	内:ナデ 外:ナデ，底部篦切り	良	煤付着
27	第4トレンチ	SP35	R-1	土師質土器	皿	在地	7.9	1.1	5.1	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒多量に含む		内:7.5YR8/4浅黄橙色 外:7.5YR8/4浅黄橙色	内:ナデ 外:ナデ，篦切り，板状痕	良	
28	第8トレンチ	SP53	R-1	土師質土器	皿	佐藤B Ⅲ-4か	7.1	1.1	4.6	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:7.5YR7/6橙色 外:7.5YR6/6橙色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，篦切りの後ナデ，板状痕	良	
29	第7トレンチ	SP86	R-4	土師質土器	皿	在地	(9.8)	1.2	(8.0)	やや密 0.5mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:5YR7/6橙色 外:5YR6/6橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
30	第8トレンチ	SP77	R-2	土師質土器	皿	在地？	-	1.5+	-	密 微砂粒含む		内:10YR8/2灰白色 外:10YR8/2灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	

（）は復元値

No	調査区	出土遺構	遺物番号	種類	器種	型式	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	色調1 (胎土)	色調2 (釉薬，内外色調)	調整	焼成	備考
31	第7トレンチ	SP80	R-1	土師質土器	杯	在地	-	1.6+	-	やや密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:7.5YR8/2灰白色 外:7.5YR8/2灰白色	内:ナデ 外:ナデ	良	
32	第7トレンチ	SP83	R-1	土師質土器	(皿)口縁部	在地	-	1.9+	-	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:5YR8/3淡橙色 外:10YR8/3浅黄橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
33	第7トレンチ	SP80	R-2	土師質土器	(椀)底部	在地	-	1.5+	-	やや密 2mm以下長石，赤色粒含む		内:7.5YR8/2灰白色 外:7.5YR8/2灰白色	内:ナデ 外:ナデ，底部篦切り	良	
34	第7トレンチ	SP46	R-1	土師質土器	椀	在地	-	1.7+	(5.0)	密 2mm以下の石英。長石含む		内:2.5Y8/1灰白色 外:2.5Y7/1灰白色	内:ナデ 外:ナデ	良	高台貼付
35	第10トレンチ	SP66	R-1	土師質土器	椀	在地？	-	2.1+	-	密 砂粒殆ど含まない		内:10YR8/2灰白色 外:10YR8/2灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
36	第7トレンチ	SP85	R-1	土師質土器	杯	在地	(13.5)	2.35+	-	やや密 1mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:5YR7/6橙色 外:5YR7/6橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
37	第7トレンチ	SP85	R-2	土師質土器	杯	在地？	(16.4)	3.2+	-	やや密 3mm以下の石英，褐色粒含む		内:10YR8/3浅黄橙色 外:7.5YR8/4浅黄橙色	内:ナデ，指頭ナデ 外:ナデ	良	
38	第8トレンチ	SK64	R-1	須恵質土器	椀	不明	(14.0)	1.3+	-	密 砂粒殆ど含まない		内:2.5Y8/1灰白色 外:2.5Y8/1灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，篦ミガキ	良	
39	第8トレンチ	SK76	R-1	土師質土器	椀	在地？	-	1.5+	-	密 微砂粒，赤色粒含む		内:10YR8/2灰白色 外:7.5YR8/2灰白色	内外:回転ナデ	良	
40	第7トレンチ	SP86	R-3	土師質土器	椀	在地	(12.8)	3.0+	-	やや密 1mm以下の石英，長石，赤色粒，黒色粒含む		内:10YR7/2にぶい黄橙色 外:10YR7/2にぶい黄橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
41	第7トレンチ	SP81	R-1	土師質土器	(椀)口縁部	在地	(14.0)	1.8+	-	やや粗 2mm以下の石英，長石含む		内:7.5YR5/4にぶい褐色 外:7.5YR5/4にぶい褐色	調整不明	良	
42	第8トレンチ	SP77	R-1	土師質土器	鍋	楠井AⅡ?	-	4.95+	-	密 3mm以下の石英，長石含む		内:10YR7/2にぶい黄橙色 外:7.5YR5/3にぶい褐色	内:ナデ 外:回転ナデ，指頭圧	良	内面煤付着
43	第1トレンチ	SD15	R-1	須恵質土器	(杯)口縁部	不明	-	1.2+	-	密 微砂粒を少量に含む		内:N6/ 灰色 外:N6/ 灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
44	第7トレンチ	SP86	R-2	須恵質土器	底部	不明	-	0.9+	(4.6)	密 長石，黒色粒含む		内:7.5Y8/1灰白色 外:7.5Y8/1灰白色	内:回転ナデ 外:ナデ，回転ナデ	良	高台貼付
45	第7トレンチ	SP48	R-1	須恵質土器	杯	不明	(12.8)	3.0+	-	密 1mm程度の石英，長石含む		内:7.5Y8/1灰白色 外:7.5Y8/1灰白色	内:ナデ，篦ミガキ 外:ナデ	良	口縁端部に重ね焼きの痕跡
46	第8トレンチ	SP78	R-1	須恵質土器	椀	不明	(13.6)	2.5+	-	密 砂粒殆ど含まない		内:N7/ 灰白色 外:N7/ 灰白色	内:回転ナデ，篦ミガキ 外:回転ナデ	良	
47	第2トレンチ	SP7	R-4	磁器	皿	白磁(Ⅱ-1a)	-	2.4+	-	微	2.5GY8/1灰白色	透明釉	内:施釉 外:施釉	良好	輪花，内面に沈線を有する
48	第4トレンチ	SP35	R-2	磁器	碗	同安系か	-	2.4+	-	微	2.5Y7/1灰白色	7.5Y7/3オリーブ黄色	内:篦による文様，櫛点描文 外:櫛目文(7本1単位)	良好	内外面ともにやや磨耗
49	第2トレンチ	SD24	R-2	磁器	皿		-	3.7+	-	微	N7/ 灰白色	緑釉	内:施釉 外:施釉	良好	
50	第2トレンチ	SP7	R-1	土製品	焼土塊	在地	長 3.6	幅 3.7	厚 3.4	密 2mm以下の石英，長石，土器片含む	10YR8/4浅黄橙色			良	
51	第2トレンチ	SP7	R-3	土製品	焼土塊	在地	長 5.35	幅 3.8	厚 3.6	密 2mm以下の石英，長石含む	10YR7/6明黄褐色		外:板状工具による押圧	良	
52	第2トレンチ	SP7	R-6	土製品	焼土塊	在地	長 4.6	幅 3.4	厚 3.7	2mm以下の石英，長石，赤色粒含む	2.5Y5/1黄灰色			良	竹による痕跡が観察できる
53	第2トレンチ	SP7	R-2	土製品	焼土塊	在地	長 5.4	幅 4.8	厚 4.0	密 2mm以下の石英，長石含む	7.5YR7/6橙色		外:板状工具による押圧	良	スサ痕あり
54	第8トレンチ	SP58	R-1	土製品	焼土塊	在地	長 5.1	幅 3.6	厚 3.4	密 3mm以下の石英，長石，赤色粒含む	10YR8/2灰白色			良	粘土貼り合せ痕
55	第7トレンチ	SP86	R-1	石製品	叩き石? 砥石?	-	長 8.95	幅 7.1	厚 4.6	砂岩	2.5Y7/1灰白色		使用痕		混入か
56	第10トレンチ	SX60	R-6	土師質土器	皿	佐藤BⅢ-4か	(6.8)	0.9+	(2.6)	密 1mm以下の石英，長石含む		内:10YR7/2にぶい黄橙色 外:2.5Y7/3浅黄色	内:ナデ 外:ナデ，篦切り	良	
57	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-28	土師質土器	皿	BⅢ-3	(7.6)	1.0	(6.0)	密 砂粒殆ど含まない		内:10YR8/2灰白色 外:10YR8/2灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，回転篦切り	良	
58	第10トレンチ	SX60 P2	R-17	土師質土器	(杯)口縁部	在地	-	1.5+	-	やや密 1mm以下の石英，長石含む		内:2.5Y5/1黄灰色 外:2.5Y6/1黄灰色	内:ナデ 外:ナデ	良	
59	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-29	土師質土器	椀	在地？	-	2.4+	-	密 赤色粒含む		内:7.5YR8/3浅黄橙色 外:7.5YR7/4にぶい橙色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
60	第10トレンチ	SX60 P3	R-18	土師質土器	(椀)口縁部	在地	-	1.7+	-	密 1mm以下の石英，長石含む		内:10YR6/6明黄褐色 外:10YR6/2灰黄褐色	内:ナデ 外:ナデ	良	
61	第10トレンチ	SX60 下部集石撤去時	R-36	土師質土器	杯	在地？	-	1.65+	-	密 1mm以下の砂粒少量含む		内:10YR7/1灰白色 外:5YR8/2灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，篦切り	良	外面煤付着

() は復元値

No	調査区	出土遺構	遺物番号	種類	器種	型式	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	色調1 (胎土)	色調2 (釉薬，内外色調)	調整	焼成	備考
62	第10トレンチ	SX60	R-7	土師質土器	杯	在地	(10.8)	2.5+	-	密 1mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:10YR8/3浅黄橙色 外:7.5YR8/4浅黄橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
63	第10トレンチ	SX60	R-8	土師質土器	杯	在地？	(11.0)	2.2+	-	密 1mm以下の長石含む		内:10YR8/2灰白色 外:10YR8/2灰白色	内:ナデ 外:ナデ	良	
64	第10トレンチ	SX60	R-9	土師質土器	杯	佐藤D Ⅱ-6か	(11.0)	3.4	(5.3)	密 2mm以下の長石，赤色粒含む		内:10YR8/4浅黄橙色 外:10YR8/3浅黄橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
65	第10トレンチ	SX60	R-3	土師質土器	杯	佐藤D Ⅱ-7	(9.6)	3.4	(5.0)	密 2mm以下の石英，長石含む		内:10YR8/2灰白色 外:10YR8/2灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，底部篦切りの後ナデ，板状痕	良	
66	第10トレンチ	SX60 下部集石撤去時	R-35	土師質土器	椀	在地	(14.4)	2.7+	-	密 1mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:2.5Y8/1灰白色 外:2.5Y8/1灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
67	第10トレンチ	SX60	R-15	土師質土器	(鍋)口縁部	在地	-	2.3+	-	やや粗 5mm以下の石英，長石，黒色粒含む		内:7.5YR5/2灰褐色 外:5YR6/8橙色	内外:ナデ	良	
68	第10トレンチ	SX60	R-10	土師質土器	鍋	楠井A Ⅲ	-	2.2+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		内:10YR7/2にぶい黄橙色 外:10YR3/4暗褐色	内:ハケ，回転ナデ 外:ハケ，回転ナデ，ナデ	良	外面煤付着
69	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-25	土師質土器	鍋	楠井A Ⅰ	-	6.1+	-	やや密 2mm以下の石英，長石含む		内:10YR5/2灰黄褐色 外:7.5YR4/2灰褐色	内:ハケ 外:ハケ	良	外面煤付着
70	第10トレンチ	SX60 R-004 上部撤去後	R-34	土師質土器	足釜	楠井B Ⅱ	(19.8)	5.2+	-	密 1mm以下の石英，長石含む		内:10YR7/4にぶい黄褐色 外:10YR6/3にぶい黄褐色	内:ナデ，ハケ 外:ナデ，指頭圧，ハケ	良	外面煤付着
71	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-20	土師質土器	足釜	楠井B Ⅱ	(21.2)	6.3+	-	密 2mm以下の長石，褐色粒含む		内:10YR6/3にぶい黄橙色 外:10YR5/2灰黄褐色	内:ナデ 外:ナデ，鍔部指頭圧の後ナデ	良	
72	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-22	土師質土器	足釜	楠井B Ⅲ	(20.9)	6.0+	-	やや密 2mm以下の石英，長石，褐色粒含む		内:10YR7/3にぶい黄褐色 外:7.5YR6/4にぶい褐色	内:ナデ 外:ナデ，鍔部下端指頭圧，ハケの後指頭圧	良	外面煤付着
73	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-21	土師質土器	足釜	楠井B Ⅲ	(21.6)	7.4+	-	密 1mm以下の石英，赤色粒，黒色粒含む		内:10YR7/3にぶい黄褐色 外:10YR3/1黒褐色	内:ナデ 外:ナデ，鍔部下端指頭圧，ハケの後指頭圧	良	外面煤付着
74	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-19	土師質土器	足釜	楠井B Ⅲ	(21.6)	5.6+	-	密 1mm以下の長石，石英含む		内:2.5Y8/2灰白色 外:10YR5/2灰黄褐色	内:ナデ 外:ナデ，ハケ，指頭圧	良	
75	第10トレンチ	SX60 No.1	R-31	土師質土器	足釜	楠井B Ⅱ	(23.0)	8.7+	-	密 1.5mm以下の石英，長石含む		内:N6/ 灰色 外:N6/ 灰色	内:ナデ，ハケ 外:ナデ，マメツ	良	須恵質焼成，窯道具に転用か
76	第10トレンチ	SX60 R-001 上部撤去後	R-32	土師質土器	(足釜)脚部	在地	-	22.2+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		外:10YR7/1灰白色	外:ナデ，指頭圧	良	外面煤付着
77	第10トレンチ	SX60	R-13	土師質土器	捏鉢	楠井A Ⅱ	(26.0)	5.6+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		内:5Y3/1オリーブ黒色 外:2.5Y7/2灰黄色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，指頭圧	良	
78	第10トレンチ	SX60 P2	R-16	土師質土器	鉢	楠井A Ⅰか	(33.0)	6.6+	-	やや粗 3mm以下の石英，長石含む		内:5Y7/1灰白色 外:5Y6/1灰色	内:ハケ 外:ナデ，マメツ	良	
79	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-23	土師質土器	杯	佐藤D Ⅱ-6	10.8	2.9	6.1	密 1mm以下の長石，赤色粒含む		内:10YR5/2灰黄褐色 外:2.5Y8/1灰白色	内:ナデ 外:ナデ，底部篦切りの後ナデ，板状圧痕	良	
80	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-24	須恵質土器	杯	不明	(14.0)	3.3	(8.0)	密 砂粒殆ど含まない		内:N8/ 灰白色 外:2.5Y7/2灰白色	内:回転ナデ，ハケ 外:回転ナデ，ハケ	良	外面煤付着 軟質須恵質
81	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-27	須恵質土器	椀	不明	-	2.8+	-	密 砂粒殆ど含まない		内:N7/ 灰白色 外:N7/ 灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
82	第10トレンチ	SX60 上部の石撤去時	R-26	須恵器	(甕)体部	-	-	5.65+	-	密 砂粒殆ど含まない		内:N5/ 灰色 外:N5/ 灰色	内:青海波文痕 外:平行タタキ，カキメ	良好	
83	第10トレンチ	SX60	R-5	須恵質土器	底部	不明	-	0.7+	(4.6)	密 1mm以下の石英，長石含む		内:N7/ 灰白色 外:N7/ 灰白色	内:ナデ 外:ナデ，底部回転ナデの後仕上げナデ	良	高台貼付
84	第10トレンチ	SX60	R-4	土師質土器	椀	在地？	-	1.2+	(5.0)	密 砂粒殆ど含まない		内:N8/ 灰白色 外:N8/ 灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，ナデ	良	高台貼付
85	第10トレンチ	SX60	R-11	須恵質土器	(鉢)口縁部	十瓶E4	(28.6)	5.1+	-	やや密 2mm以下の石英，長石含む		内:N5/ 灰色 外:N5/ 灰色	内:ナデ 外:ナデ，口縁端部剥離	良	
86	第10トレンチ	SX60	R-12	須恵質土器	底部	十瓶 産？	-	3.7+	(11.8)	やや密 2mm以下の石英，長石含む		内:N5/ 灰色 外:N8/ 灰白色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	不良	甕か鉢
87	第10トレンチ	SX60	R-14	須恵質土器	底部	不明	-	5.1+	(13.8)	密 1mm以下の石英，長石少量に含む		内:N3/ 暗灰色 外:N3/ 暗灰色	内:ナデ，指頭ナデ 外:ナデ	良	十瓶産？
88	第10トレンチ	SX60 No.1	R-30	須恵質土器	鍋	楠井B Ⅳ	-	20.2+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		内:N7/ 灰白色 外:N6/ 灰色	内:回転ナデ，ハケ 外:回転ナデ，指頭圧，篦ケズリ	良	外面煤付着
89	第10トレンチ	SX60 No.2 R-002 上部撤去後	R-33	須恵質土器	鍋	楠井B Ⅳ	(40.0)	13.2+	-	密 2mm以下の石英，長石，砂粒を多く含む		内:N5/ 灰色 外:N4/ 灰色	内:回転ナデ，指頭圧，ハケ 外:回転ナデ，指頭圧，篦ケズリ	良	外面煤付着
90	第10トレンチ	SX60	R-1	石製品	敲打石	-	長 14.3	幅 13.6	厚 9.5				敲打痕多数あり		被熱により黒変部分あり

（）は復元値

No	調査区	出土遺構	遺物番号	種類	器種	型式	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	色調1 (胎土)	色調2 (釉薬，内外色調)	調整	焼成	備考
91	第10トレンチ	SX60	R-2	石製品	叩き石?	-	長 13.0	幅 12.0	厚 8.2						被熱により黒変部分あり
92	第4トレンチ	SK30	R-2	須恵質土器	(甕)体部	十瓶山式甕	-	4.0+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		内:5Y7/1灰白色 外:5Y8/1灰白色	内:ナデ 外:格子叩き	良	「十瓶山式甕」の広口胴 長平底の甕か
93	第4トレンチ	SK30	R-3	須恵質土器	(甕)体部	東播系	-	5.2+	-	密 砂粒等は含まれない		内外:N7/ 灰白色	内：ナデ 外:叩き	良	
94	第4トレンチ	SK31	R-1	磁器	蓋		摘み部 5.1	2.5	(8.8)	微	N8/ 灰白色	透明色 (呉須:濃暗青色・淡暗青色)	内外:施釉，回転ナデ	良好	
95	第1トレンチ	SK1	R-3	磁器	碗		(9.6)	4.9	(3.6)	微	N8/ 灰白色	透明色 (呉須: 濃青)	内:施釉，圏線4条 外:施釉，染付，圏線4条	良好	
96	第1トレンチ	SX11	R-3	磁器	碗	肥前系	(9.4)	4.6	(3.4)	微	7.5Y8/1灰白色	透明色 (呉須:暗・淡青色)	内:圏線4条，見込みに文様 外:圏線4条，3箇所に同じ文様	良好	
97	第2トレンチ	SP23	R-1	磁器	碗		(11.8)	4.4+	-						
98	不明	SD10	R-2	陶器	小壺		-	2.5+	(2.4)	細	N7/ 灰白色	5YR3/4明赤褐色	内:施釉，回転ナデ 外:施釉，指頭圧痕の後回転ナデ，底部糸切りの後回転ナデ	良好	
99	不明	SD10	R-3	陶器	体部		-	4.4+	-	細	5YR7/6橙色	透明色	内:施釉，回転ナデ 外:回転ナデ	良	
100	第1トレンチ	SX11	R-7	陶器	(鉢)底部		-	3.6+	(7.4)	細 含有物含まない	5YR4/4にぶい赤褐色	5YR2/2黒褐色	内外:施釉，削り	良好	見込みに胎土目2箇所残存
101	第1トレンチ	SX11	R-2	陶器	灯明皿	京・信楽系	(10.3)	1.9	(3.8)	細 含有物含まない	7.5Y8/1灰白色	7.5Y7/2灰白色	内:施釉 外:回転ナデ，回転篦削り	良好	
102	第1トレンチ	SX11	R-1	陶器	灯明皿		(10.5)	2.4	(3.8)	微	2.5Y8/ 灰白色	透明色	内:施釉，回転ナデ 外:口縁部のみ施釉，回転ナデ	良好	口縁部に煤付着 ピン痕あり
103	第１トレンチ	SK1	R-1	陶器	鍋		18.0	8.8+	7.8	細	7.5YR7/4にぶい橙色	5YR6/6橙色	内:施釉 外:ナデ，削り	良	軟質施釉陶器
104	第4トレンチ	SK32	R-1	陶器	鍋	屋嶋焼?	(19.6)	6.0+	-	細	7.5YR6/6橙色	5YR5/6明赤褐色	内:施釉 外:削り，接合痕	良	軟質施釉陶器
105	第4トレンチ	SK30	R-8	土師質土器	皿	在地	(9.6)	1.1	(7.6)	密 2mm以下の石英，長石含む		内:10YR7/3にぶい黄橙色 外:10YR7/4にぶい黄橙色	内外:ナデ	良	
106	第4トレンチ	SK30	R-12	土師質土器	皿	在地	-	1.1+	-	やや密 2mm以下の石英，長石含む		内外:10YR6/4にぶい黄橙色	内外:調整	良	
107	第4トレンチ	SK30	R-11	土師質土器	皿	在地?	-	1.0	-	密 1mm以下の石英，長石，金雲母含む		内:10YR7/4にぶい黄橙色 外:10YR7/3にぶい黄橙色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，回転糸切り？	良	
108	第4トレンチ	SK30	R-1	土師質土器	皿	在地	-	1.5+	-	やや粗 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内外:7.5YR8/6浅黄橙色	内外:マメツ	良	粘土付着
109	第4トレンチ	SK30	R-7	土師質土器	椀	在地	(8.0)	1.8+	-	やや密 2mm以下の石英，長石含む		内外:2.5Y8/1灰白色	内外:マメツ	良	
110	第4トレンチ	SK30	R-9	土師質土器	口縁部	在地	(9.8)	1.7+	-	密 1mm以下の石英，長石含む		内:10YR7/3にぶい黄橙色 外:10YR8/2灰白色	内外:マメツ	良	
111	第4トレンチ	SK30	R-6	土師質土器	椀	在地	(11.0)	2.0+	-	密		内:10YR8/3浅黄橙色 外:10YR8/4浅黄橙色	内外:ナデ	良	
112	第4トレンチ	SK30	R-10	土師質土器	口縁部	在地	-	1.5+		密 1mm以下の石英，長石含む		内外:10YR8/3浅黄橙色	内外:調整不明	良	
113	第4トレンチ	SK30	R-13	土師質土器	口縁部	在地	-	-	1.5+	密		内外:2.5Y8/2灰白色	内外:ナデ	良	
114	第4トレンチ	SK30	R-5	土師質土器	杯	在地	(10.6)	2.5	-	やや密 2mm以下の石英。長石含む		内外:10YR8/2灰白色	内:ナデ 外:ナデ，マメツ	良	
115	第4トレンチ	SK30	R-4	土師質土器	鍋	楠井AⅡ	-	2.5+	-			内:7.5YR7/4にぶい橙色 外:7.5YR8/3浅黄橙色	内:ナデ，ハケ 外:ナデ	良	
116	第6トレンチ	SP44	R-1	土師質土器	鉢	在地？	-	1.9+	-	密 微砂粒含む		内外:10YR8/2灰白色	内外:回転ナデ	良	
117	不明	SD10	R-7	土師質土器	鉢	在地?	(28.4)	4.5+	-	密 5mm以下の石英，長石，赤色粒，角閃石，金雲母含む		内外:7.5YR6/4にぶい橙色	内:ナデ 外:ナデ，刷毛？	良	
118	第1トレンチ	SK1	R-4	土師質土器	鉢?	在地	(16.4)	10.8+	-	やや密 2mm以下の石英，長石，雲母を含む		内:7.5YR5/3にぶい褐色 外:7.5YR6/3にぶい褐色	内:指頭圧，ナデ 外:マメツ	良	
119	第1トレンチ	SP14	R-1	土師質土器	井側	在地	-	(8.9)	-	やや密 1mm以下の石英，長石含む		内:10YR7/3にぶい黄橙色 外:7.5YR6/4にぶい橙色	内外:ナデ	良	
120	不明	SD10	R-8	土師質土器	鉢	在地	(45.3)	13.3	(34.2)	やや粗 2mm以下の石英，長石，赤色粒，雲母を含む		内:10YR5/4にぶい黄褐色 外:10YR5/4にぶい黄褐色	内:ナデ，指頭圧痕 外:ナデ，貼付突帯，指頭ナデ	良	接合，工具痕あり

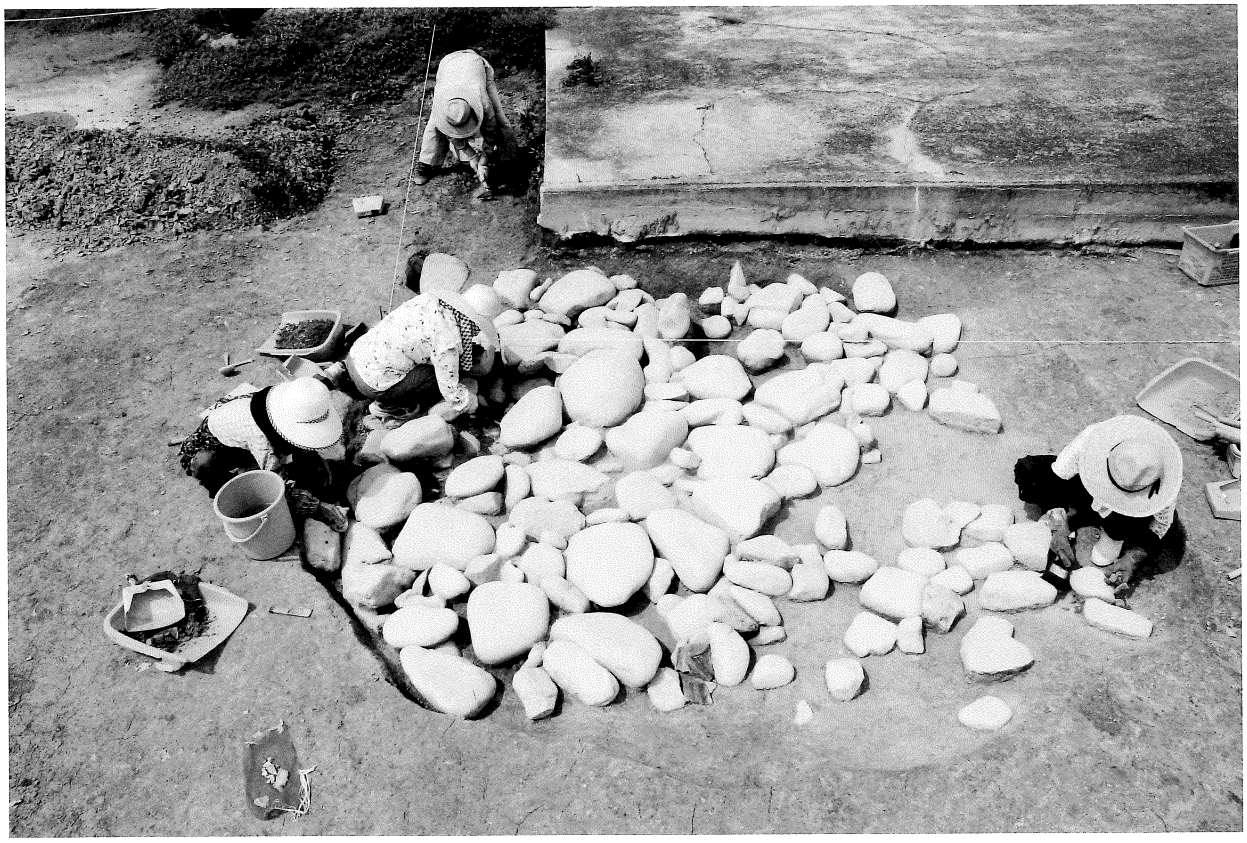
（）は復元値

No	調査区	出土遺構	遺物番号	種類	器種	型式	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	色調1 (胎土)	色調2 (釉薬，内外色調)	調整	焼成	備考
121	第1トレンチ	SX11	R-5	土師質土器	羽釜	在地	11.9	8.1	-	密 1mm以下の石英，長石を含む		内:10YR4/1灰褐色 外:10YR4/1灰褐色	内:指頭ナデ 外:指頭ナデ，ナデ	良好	鍔部に金属を通した2対の穿孔あり
122	第1トレンチ	SX11	R-6	土師質土器	焜炉	在地？	-	5.5+	-	密 0.5ｍｍ以下の石英，長石，金雲母，赤色粒，角閃石を含む		内:5YR6/6橙色 外:5YR7/6橙色	内:ナデ，横ハケ 外:ナデ	良	接合痕あり
123	第1トレンチ	SX11	R-4	土師質土器	鉢	在地？	(42.0)	13.6	(32.2)	密 5mm以下の石英，長石，金雲母を含む		内:7.5YR6/3にぶい褐色 外:7.5YR7/4にぶい橙色	内:ナデ，指頭ナデ 外:貼付突帯，底部板ナデ	良	
124	不明	SD10	R-1	土製品	玩具	在地?	幅 5.5	2.1+	-	密		内:5YR6/6橙色 外:5YR7/6橙色		良	
125	第1トレンチ	SK1	R-5	瓦	軒丸瓦	-	長 6.1+	幅 3.6+	厚 1.5	密	5PB5/1青灰色		凸:ナデ 凹:板ナデ，指頭圧	良	
126	第4トレンチ	SK31	R-2	瓦	軒丸瓦	-	長 7.0+	-	厚 2.0	密 2mm以下の石英，長石含む	2,5GY7/1明オリーブ灰色		凹:ナデ，指頭圧痕	良	三つ巴文 珠文11個残存 キラコ付着
127	第4トレンチ	SK31	R-3	瓦	軒平瓦	-	長 19.6+	幅 2.5+	厚 1.9	密 砂粒殆ど含まない	N3/ 暗灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良	
128	第1トレンチ	SK1	R-9	瓦	丸瓦	-	長 9.9+	幅 8.8+	厚 1.65	密	N3/ 暗灰色		凸:ナデ 凹:コビキBの後，叩き痕，篦削り	良	凸面にキラコ付着
129	第1トレンチ	SK1	R-13	瓦	丸瓦	-	長 12.5+	幅 8.6+	厚 2.0	密	N7/ 灰白色		凸:コビキナデ，ナデ 凹:布目圧痕	良	凸面にキラコ付着
130	第1トレンチ	SX11	R-8	瓦	丸瓦	-	長 9.2+	幅 9.7+	厚1.7	密 微砂粒少量含む	N3/ 暗灰色		凸:篦削り，ナデ 凹:叩き痕，篦削り	良	「且紙宣」の刻印
131	第4トレンチ	SK31	R-4	瓦	丸瓦	-	長 6.1+	幅 9.8+	厚 1.7	密 微砂粒少量含む	N3/ 暗灰色		凸:ナデ 凹:布目痕，コビキB，叩き	良	凸面にキラコ付着
132	不明	SD10	R-4	瓦	平瓦	-	長 14.2+	幅 11.1+	厚1.5	密 1mm以下の石英，長石を含む	N5/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良好	凹凸面にキラコ付着
133	第1トレンチ	SK1	R-12	瓦	平瓦	-	長 10.0	幅 9.6	厚 1.6	密	N5/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良	
134	不明	SD10	R-6	瓦	平瓦	-	長 14.2+	幅 9.0+	厚1.5	密 殆ど砂粒含まない	N3/ 暗灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良	
135	第4トレンチ	SK31	R-6	瓦	平瓦	-	長 13.9+	幅 16.0+	厚 1.6	密 1mm以下の砂粒含む	N4/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良	凸面にキラコ付着 一部に鉄分付着
136	第4トレンチ	SK31	R-5	瓦	平瓦	-	長 15.3+	幅 13.7+	厚 1.8	密 2mm以下の砂粒含む	N5/ 灰色		凸:ナデ，工具痕 凹:ナデ	良	凸面にキラコ付着
137	第1トレンチ	SK1	R-15	瓦	平瓦	-	長 0.8	幅 2.9	厚 1.6	密 砂粒殆ど含まない	N5/ 灰色		凹:ナデ	良	凹面にキラコ付着
138	第1トレンチ	SK1	R-10	瓦	平瓦	-	長 3.8+	幅 17.0+	厚 1.65	密	N5/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良	凸面にキラコ付着 「冨」の刻印
139	第1トレンチ	SK1	R-14	瓦	平瓦	-	長 2.0＋	幅 4.5+	厚 1.55	密 砂粒殆ど含まない	N4/ 灰色		凹:ナデ	良	凹面にキラコ付着 「冨」の刻印
140	第1トレンチ	SK1	R-8	瓦	平瓦	-	長 4.3+	-	厚 1.7	密	N6/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良	凹凸面にキラコ付着 「冨」の刻印
141	第1トレンチ	SK1	R-6	瓦	桟瓦	-	長 6.7+	幅 5.6+	厚 1.5	密	N5/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ，板ナデ	良	
142	第1トレンチ	SK1	R-11	瓦	桟瓦	-	長 9.0+	幅 6.9+	厚 1.4	密	N4/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良	凸面にキラコ付着
143	不明	SD10	R-5	瓦	練込瓦	-	長 7.0+	幅 3.4+	厚 1.7	やや粗 少量の微砂粒含む	N3/ 暗灰色		内:ナデ，篦削り	良	外表面にキラコ付着
144	第1トレンチ	SK1	R-7	瓦	隅瓦	-	-	-	厚 1.6	密	N5/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良好	
145	1次	表土掘削	R-1	弥生土器	(高杯)脚部	-	-	5.6+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		内外:7.5YR7/8黄橙色	内:ナデ 外:板状押圧，指頭圧	良	
146	第1トレンチ	遺構検出時	R-4	土師質土器	Ⅲ	佐藤B Ⅰ-2	(8.6)	0.9	(5.4)	密 1mm以下の長石含む		内:7.5YR5/6明褐色 外:10YR7/6明黄褐色	内:ナデ 外:ナデ	良	
147	第1トレンチ	北西隅一段下げ	R-1	土師質土器	Ⅲ	佐藤B Ⅲ-1か	(10.4)	1.8	(6.3)	密 4mm以下の石英，長石，黒色粒含む		内:10YR6/6明黄褐色 外:10YR7/4にぶい黄橙色	内:ナデ 外:ナデ，回転ナデ	良	底部に工具痕と粘土痕
148	第1トレンチ	北西隅一段下げ	R-2	土師質土器	Ⅲ	佐藤B Ⅱ-1か	(11.6)	1.2	(8.8)	やや密 1mm以下の長石含む		内:10YR8/4浅黄橙色 外:10YR8/4浅黄橙色	内:ナデ 外:ナデ，底部篦切り	良	
149	第4トレンチ	遺構検出時	R-9	土師質土器	Ⅲ	佐藤B Ⅲ-5	(5.4)	0.7	(5.0)	やや密 1mm以下の石英，長石含む		内:7.5YR8/4浅黄橙色 外:7.5YR8/4浅黄橙色	調整不明	良	
150	第4トレンチ	遺構検出時	R-8	土師質土器	Ⅲ	在地	(9.2)	1.8+	-	やや密 2mm以下の石英，長石含む		内:5YR7/6橙色 外:2.5YR7/6橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	

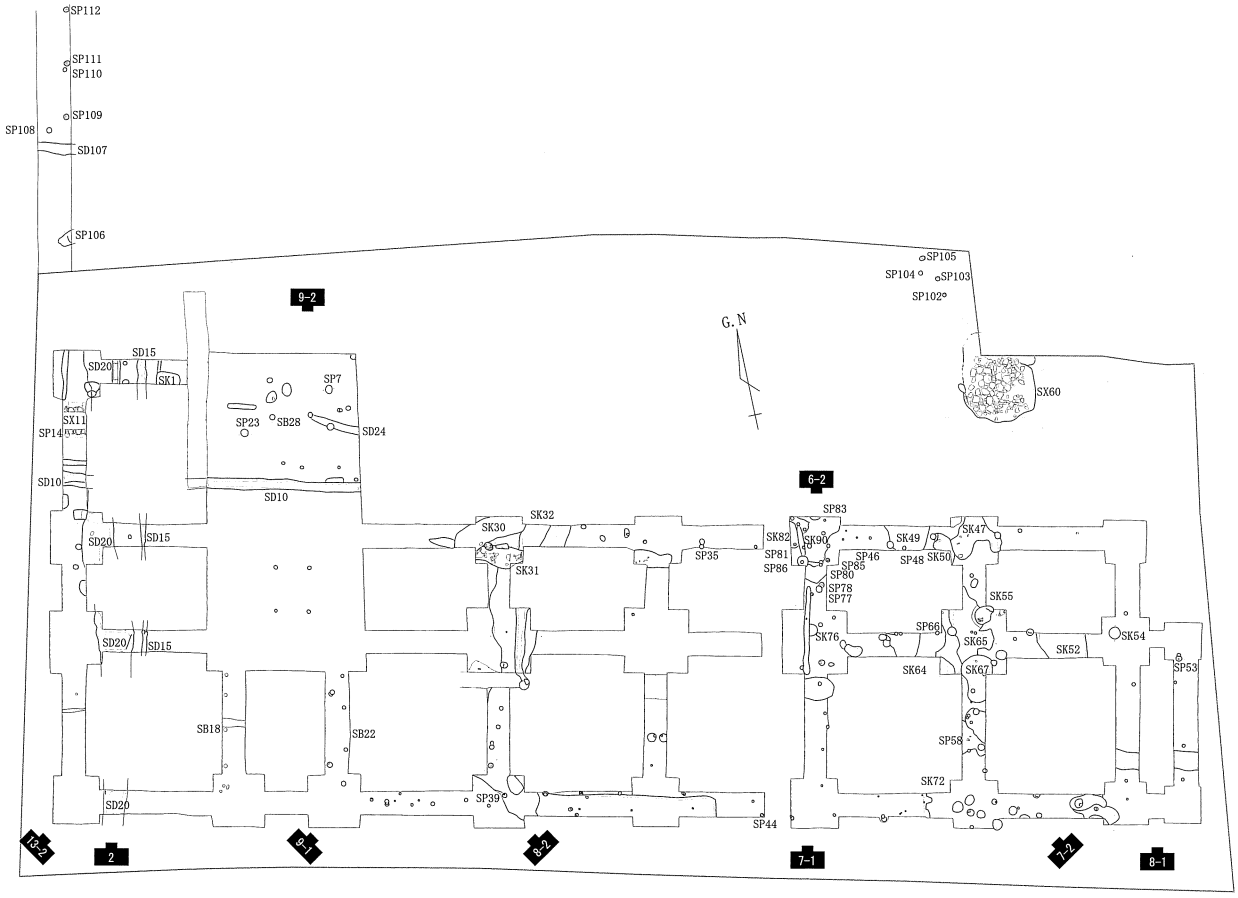
（）は復元値

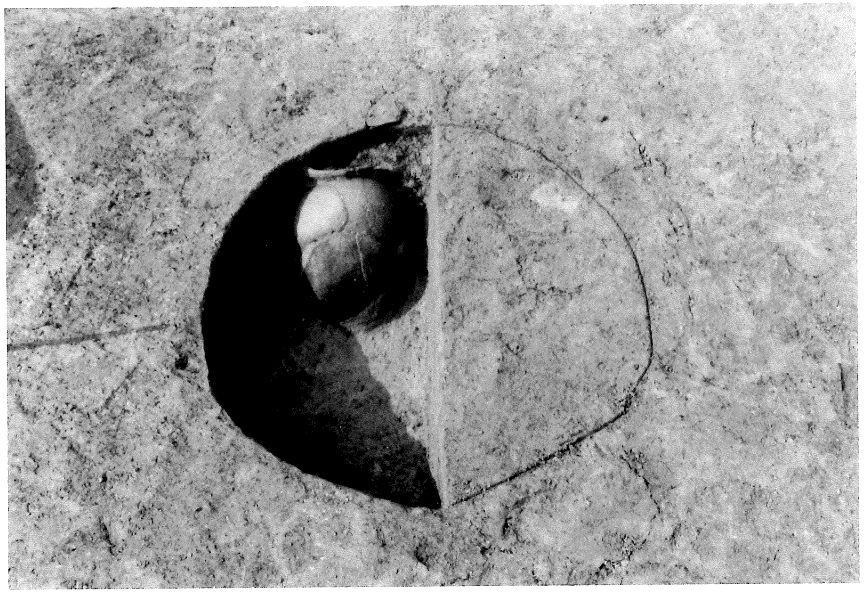
No	調査区	出土遺構	遺物番号	種類	器種	型式	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	色調1 (胎土)	色調2 (釉薬，内外色調)	調整	焼成	備考
151	第4トレンチ	遺構検出時	R-5	土師質土器	皿	佐藤B Ⅱ-1か	(11.0)	2.2	(6.0)	密 2mm以下の石英，長石含む		内:7.5YR8/4浅黄橙色 外:7.5YR8/6浅黄橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
152	第4トレンチ	遺構検出時	R-11	土師質土器	皿	在地	-	0.8	-	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:7.5YR7/6橙色 外:7.5YR6/6橙色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
153	第4トレンチ	遺構検出時	R-10	土師質土器	椀	在地	-	1.5+	-	密 微砂粒含む		内:2.5YR7/3淡赤橙色 外:2.5YR7/3淡赤橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
154	第7トレンチ	遺構検出時	R- 1	土師質土器	皿	在地	(8.2)	1.1	(6.0)	やや密 3mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:7.5YR6/6橙色 外:7.5YR6/6橙色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
155	1次	表土掘削	R-4	土師質土器	杯	在地？	(11.6)	2.2+	-	密 1mm以下の長石，赤色粒含む		内:10YR6/3にぶい黄橙色 外:7.5YR6/4にぶい橙色	内:ナデ 外:ナデ	良	
156	第4トレンチ	遺構検出時	R-6	土師質土器	椀	在地	(11.8)	2.2+	-	密 2mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:5YR6/6橙色 外:10R6/6赤橙色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
157	第4トレンチ	遺構検出時	R-7	土師質土器	椀	在地	-	2.0+	-	密 1mm以下の石英，長石含む		内:2.5Y8/1灰白色 外:7.5YR8/1灰白色	調整不明	良	
158	第4トレンチ	遺構検出時	R-1	土師質土器	鉢	在地	(26.1)	6.3+	-	やや粗 3mm以下の石英，長石含む		内:2.5Y 6/1黄灰色 外:2.5Y 7/1灰白色	内:剥離 外:ナデ，調整不明	良	
159	第4トレンチ	遺構検出時	R-4	土師質土器	足釜	楠井B Ⅲ類か	(18.1)	5.7+	-	密 4mm以下の石英，長石多く含む		内:10YR8/4浅黄橙色 外:10YR8/2灰白色浅黄橙	内:回転ナデ，ナデ 外:回転ナデ，爪形状圧痕	良	煤付着
160	第4トレンチ	遺構検出時	R-3	土師質土器	足釜	楠井B Ⅲ類か	(28.2)	3.6+	-	密 3mm以下の石英，長石含む		内:10YR7/3にぶい黄橙色 外:7.5YR7/3にぶい橙色	内:ナデ 外:ナデ，鍔部下端に指頭圧， 爪形状圧痕	良	
161	1次	表土掘削	R-7	土師質土器	足釜	楠井B Ⅳか	(20.8)	7.7+	-	密 微砂粒少量含む		内:10YR8/1灰白色 外:5YR8/4淡橙色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，指頭圧	良	
162	1次	表土掘削	R-8	土師質土器	足釜	楠井B Ⅱ	(24.8)	7.9+	-	密 3mm以下の石英，長石，赤色粒含む		内:7.5YR8/4浅黄橙色 外:7.5YR6/2灰褐色	内:ナデ 外:ナデ，鍔部下端指頭圧， 格子目タタキ	良	
163	第4トレンチ	遺構検出時	R-2	土師質土器	鉢	楠井A Ⅳ類	-	5.0+	-	やや密 1.5mm以下の石英，長石，黒色粒含む		内:2.5Y4/1黄灰色 外:2.5Y5/1黄灰色	内:ナデ 外:指頭圧の後ナデ	良	口縁端部に重ね焼きの痕跡
164	1次	表土掘削	R-5	土師質土器	鍋	楠井B Ⅲ	-	3.4+	-	密 1mm以下の石英，長石含む		内:7.5YR6/4にぶい褐色 外:10YR7/4にぶい黄橙色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
165	1次	表土掘削	R-6	土師質土器	鍋	楠井B Ⅲ	-	4.2+	-	密 2mm以下の石英，長石含む		内:5YR7/8橙色 外:7.5YR5/2灰褐色	内:回転ナデ 外:回転ナデ，板ナデ	良	
166	第2トレンチ	遺構検出時	R-3	陶器	(鉢) 口縁部		-	2.1+	-	細	2.5YR5/6明赤褐色	2.5YR4/4にぶい赤褐色	内外:施釉	良	
167	第1トレンチ	遺構検出時	R-3	陶器	皿		(10.4)	1.5+	-	細	2.5Y8/3淡黄色	透明色	内:回転ナデ，施釉，沈線2条 外:回転ナデ，口縁端部施釉	良好	
168	第1トレンチ	遺構検出時	R-2	陶器	擂鉢		-	5.4+	(10.0)	細		内外:2.5YR5/6明赤褐色	内:かき目 外:ナデ，底部糸切り痕	良好	
169	1次	表土掘削	R-2	須恵質土器	椀	不明	(15.8)	3.9	(6.0)	密 2mm以下の石英，長石含む		内:7.5Y6/1灰色 外:10Y6/1灰色	内:回転ナデ 外:回転ナデ	良	
170	1次	表土掘削	R-3	須恵質土器	鉢	東播系？	(26.0)	2.9+	-	やや密 2mm以下の長石，黒色粒含む		内:N7/ 灰白色 外:N7/ 灰白色	内:ナデ 外:ナデ	良	東播系須恵器捏鉢か
171	不明	不明	R-1	磁器	碗		-	4.65+	(6.9)	微	5Y8/1 灰白色	透明色 (呉須:暗青色)	内:施釉 外:施釉，圏線3条，桐？	良好	
172	第2トレンチ	遺構検出時	R-2	須恵質土器	蓋	不明	つまみ部 2.2	1.2+	-	密 1mm以下の石英，長石含む		内:N4/ 灰色 外:N5/ 灰色	内:回転ナデ 外:ナデ	良	
173	第1トレンチ	遺構検出時	R-1	磁器	皿		7.8	2.5	(3.6)	微	5Y8/1 灰白色	透明色	内:施釉，陰刻文 外:施釉	良好	
174	不明	不明	R-2	瓦	平瓦	-	長 11.4+	幅 10.7+	厚1.5	密	N4/ 灰色		凸:ナデ 凹:ナデ	良	
175	第2トレンチ	遺構検出時	R-1	石器	石鏃	-	長 (3.9)	幅 2.9	厚 0.4	サヌカイト					先端部欠損

写　真　図　版



○-△ ：写真図版○-△

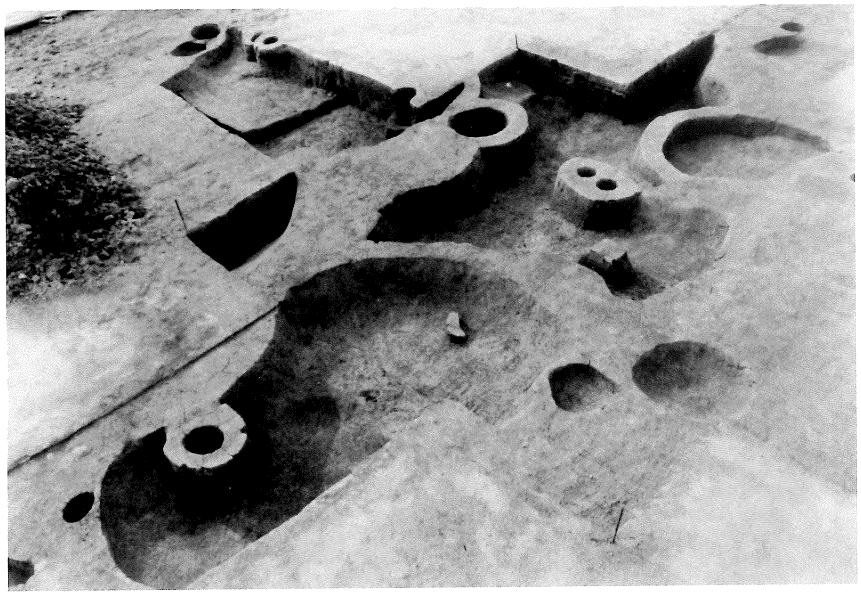

SP112
SP111
SP110
SP109
SP108
SD107
SP106
SP105
SP104
SP103
SP102
9-2
G.N
SD15
SD20
SK1
SP7
SX11
SP14
SP23
SB28
SD24
SX60
SD10
6-2
SP83
SK32
SK30
SK82
SK90
SK49
SK47
SP81
SP86
SP46
SP48
SK50
SP35
SK31
SP85
SP80
SP78
SP77
SK55
SP66
SK76
SK65
SK54
SK52
SK64
SK67
SP53
SB18
SB22
SP58
SP39
SK72
SP44
13-2
2
8-1
8-2
7-1
7-2
8-1



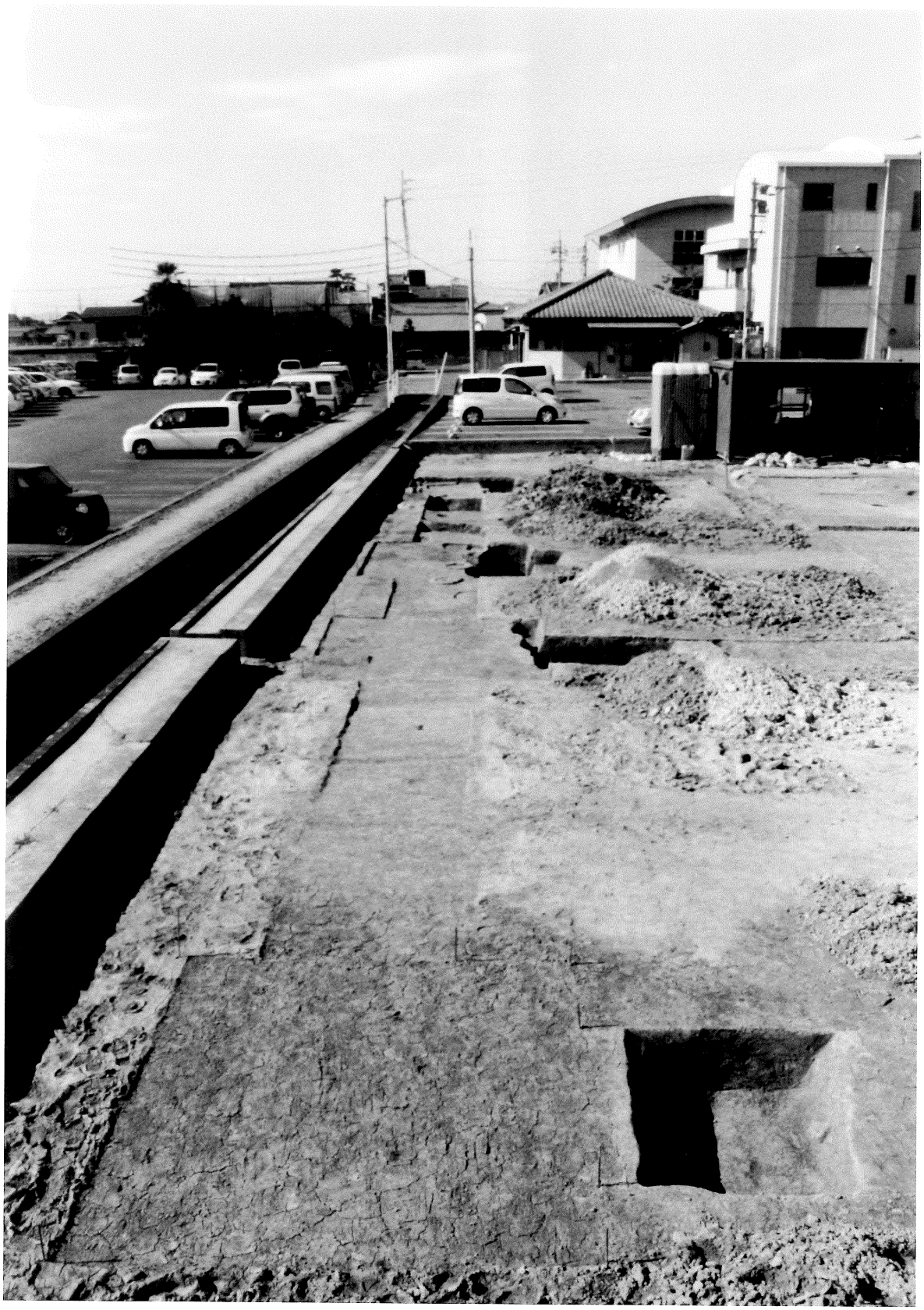
1　SK54 土器出土状況（南から）

2　SK47 周辺完掘状況（東から）

3　SK55 土器出土状況（東から）



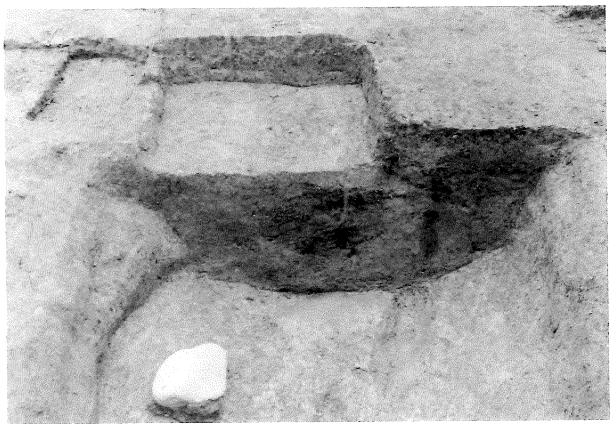
4　SK67 周辺完掘状況（南東から）



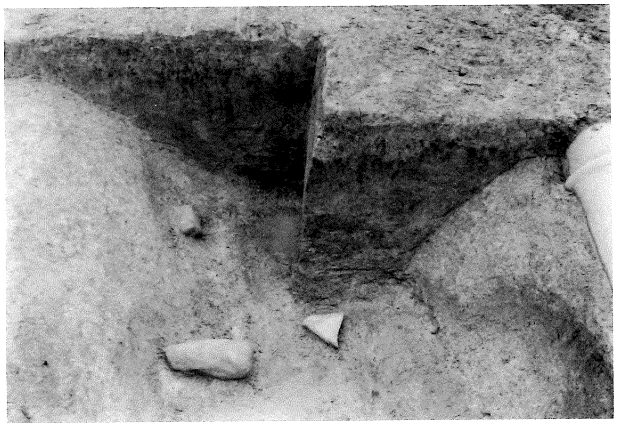
1　SD20 完掘状況（南から）

1　SD20 完掘状況（北から）

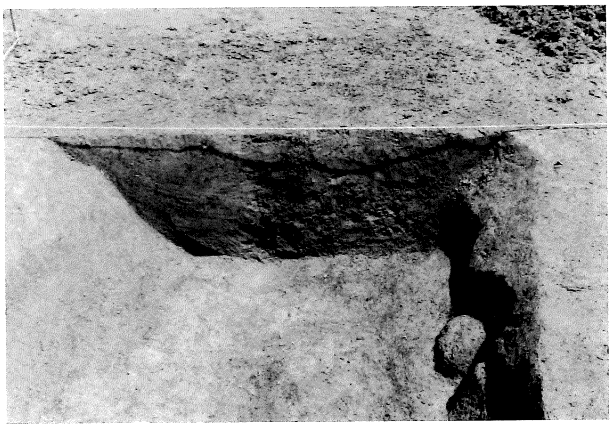
2　SD20 北端完掘状況（南から）



3　SD20 北から 2 カ所目北壁土層（南から）

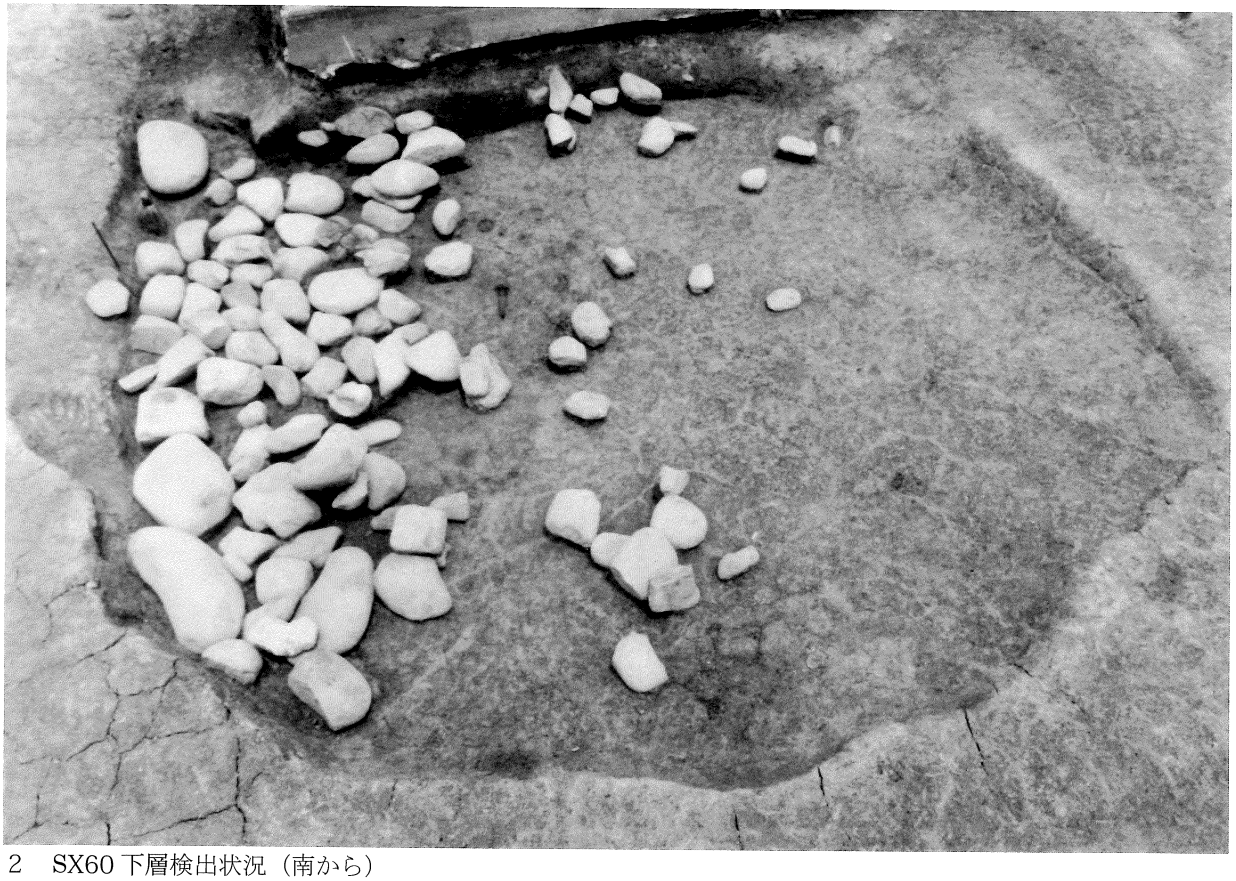


4　SD20 北端北壁土層（南から）



5　SD20 南端北壁土層（南から）

1　SX60 上層検出状況（南から）

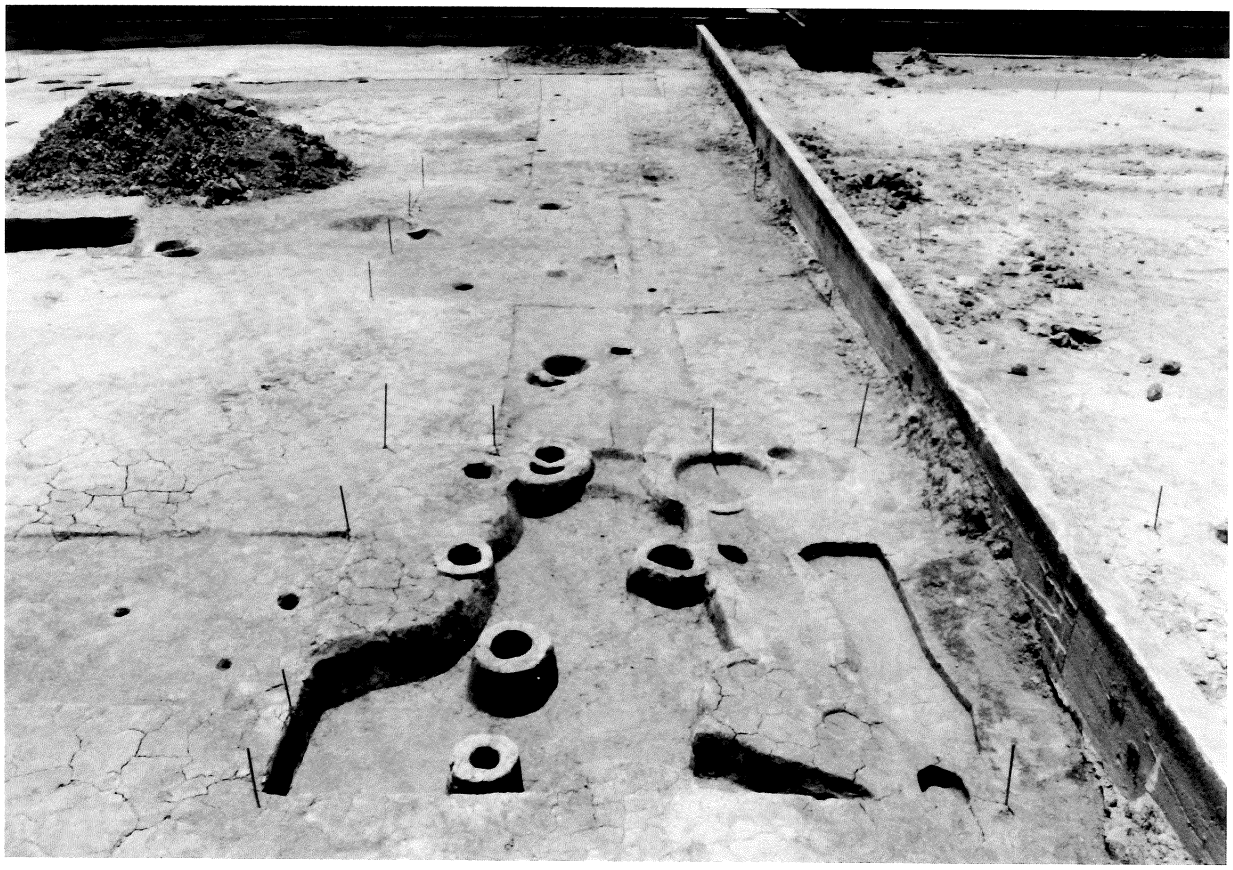


2　SX60 下層検出状況（南から）

1　SX60 周辺柱穴検出状況（南から）

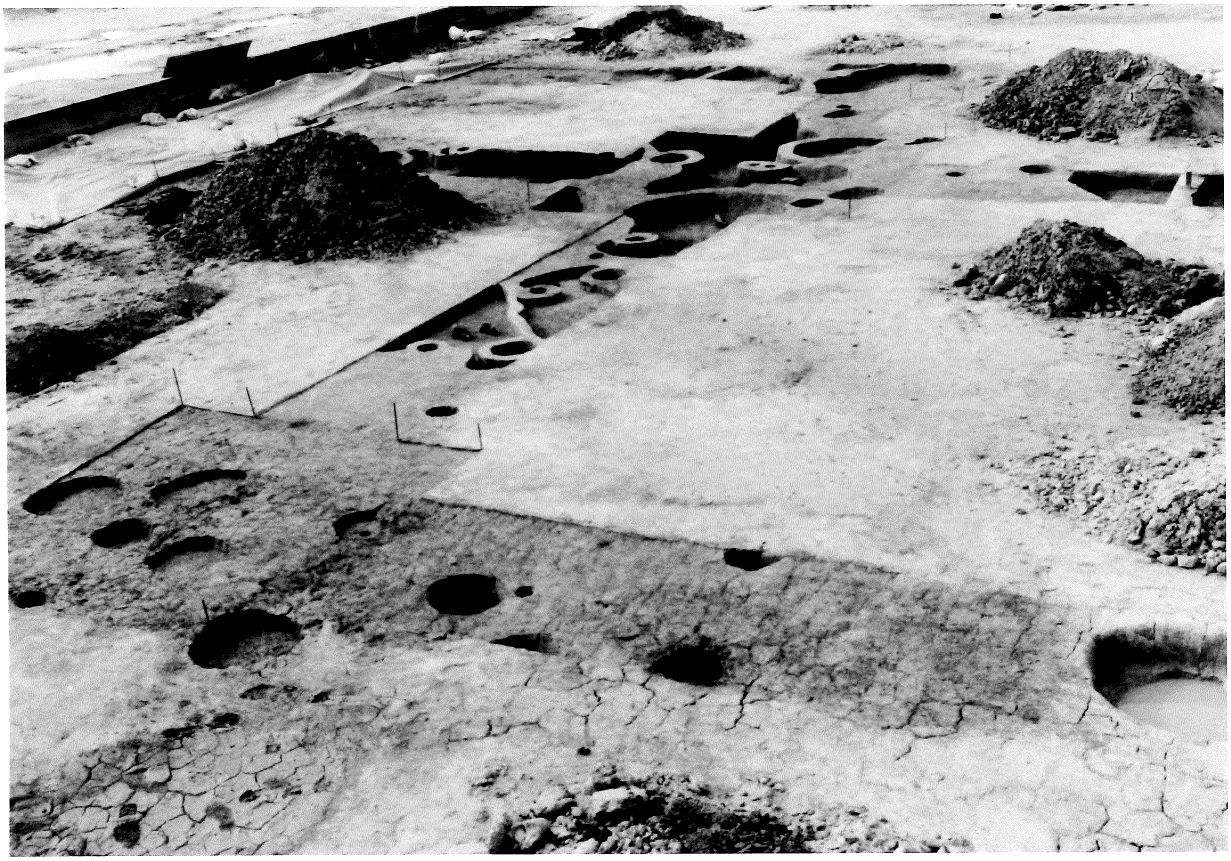
2　SX60 周辺柱穴完掘状況（南から）

1　SX60 土器出土状況（南から）

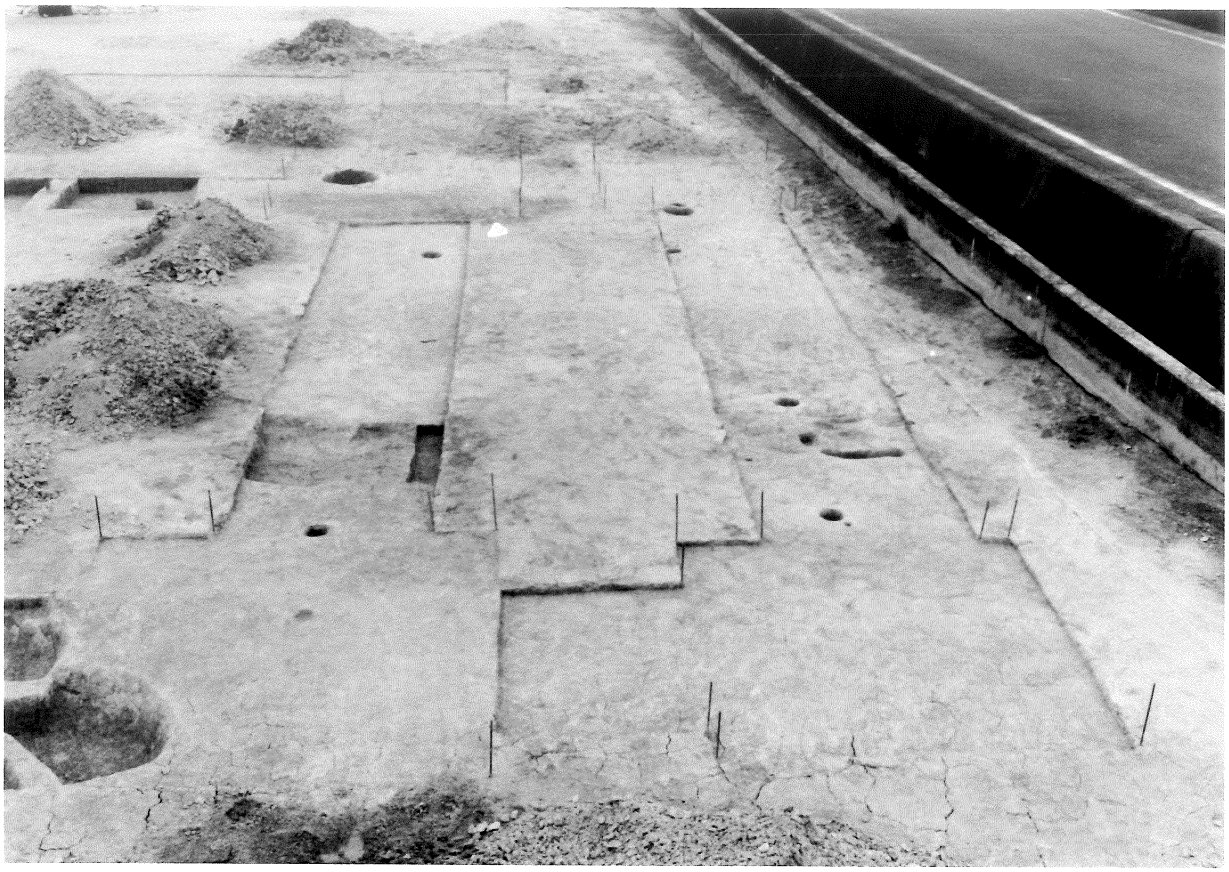


2　SK90 周辺完掘状況（北から）

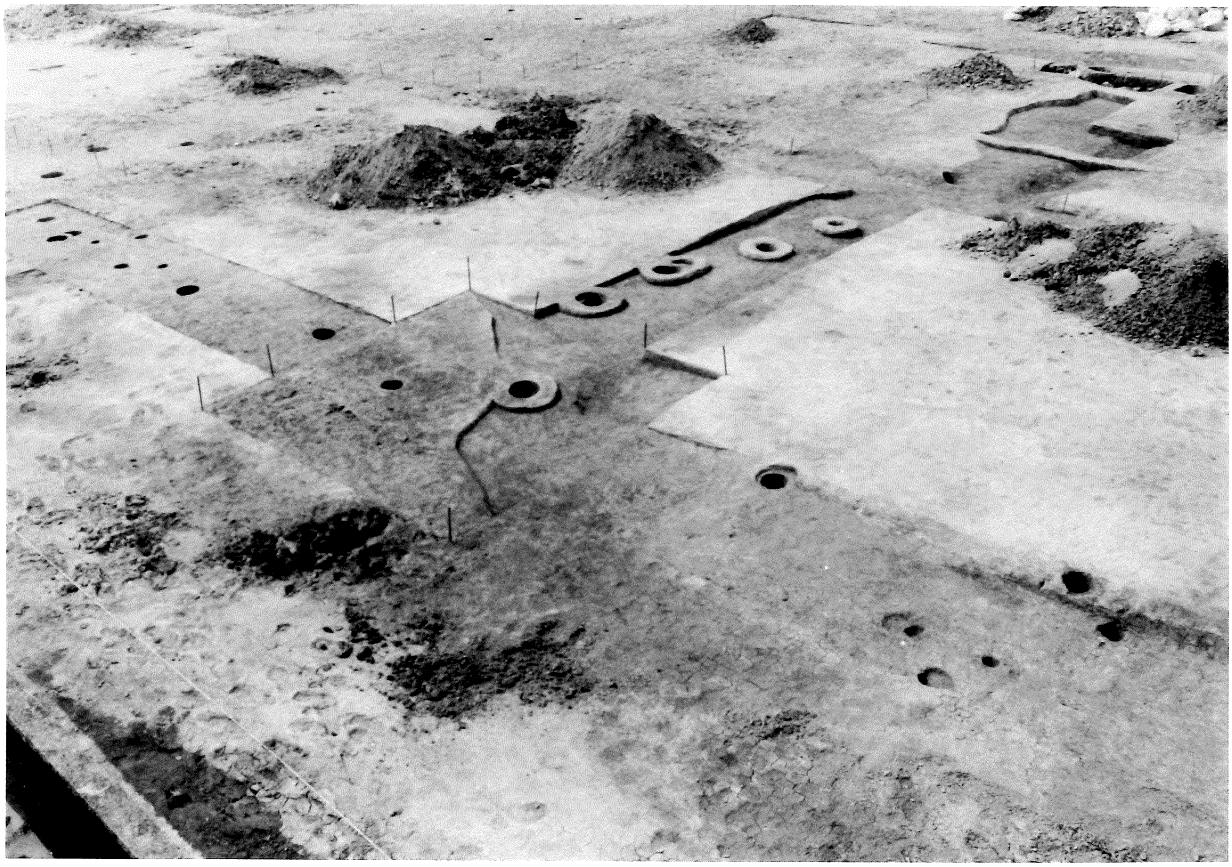
1　掘立柱建物および柵列に伴う柱列完掘状況（南から）



2　調査地南東部完掘状況（南から）

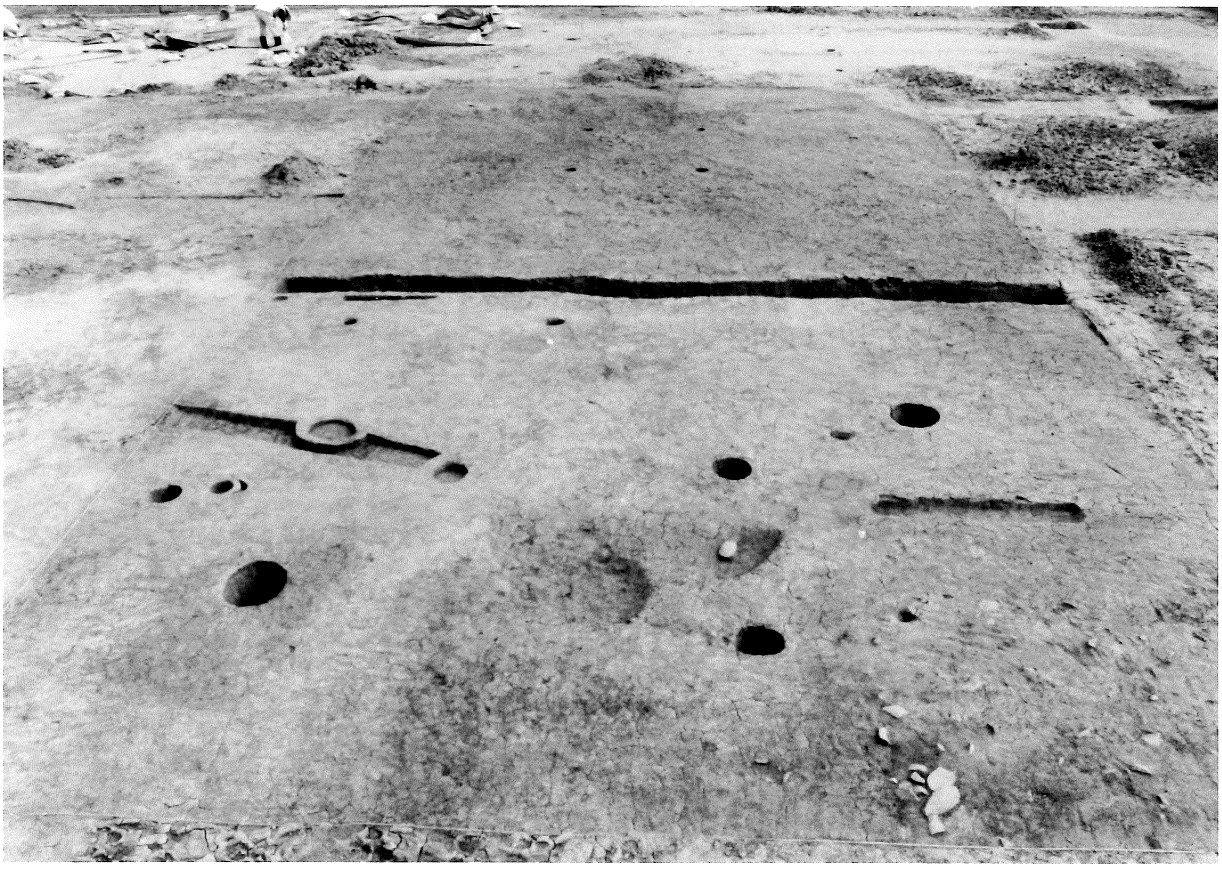


1　調査地南東隅部完掘状況（南から）



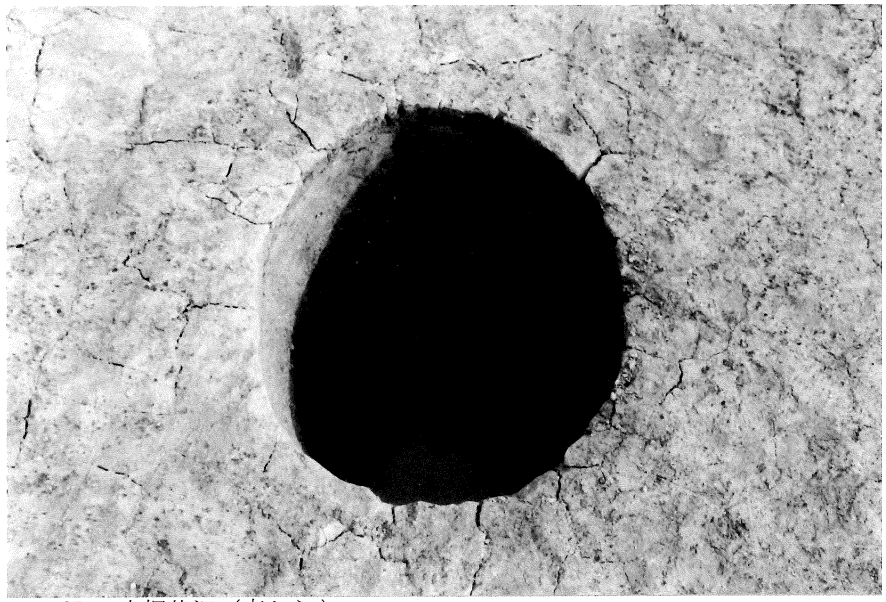
2　調査地中央部完掘状況（南東から）

1　調査地南西部完掘状況（南西から）



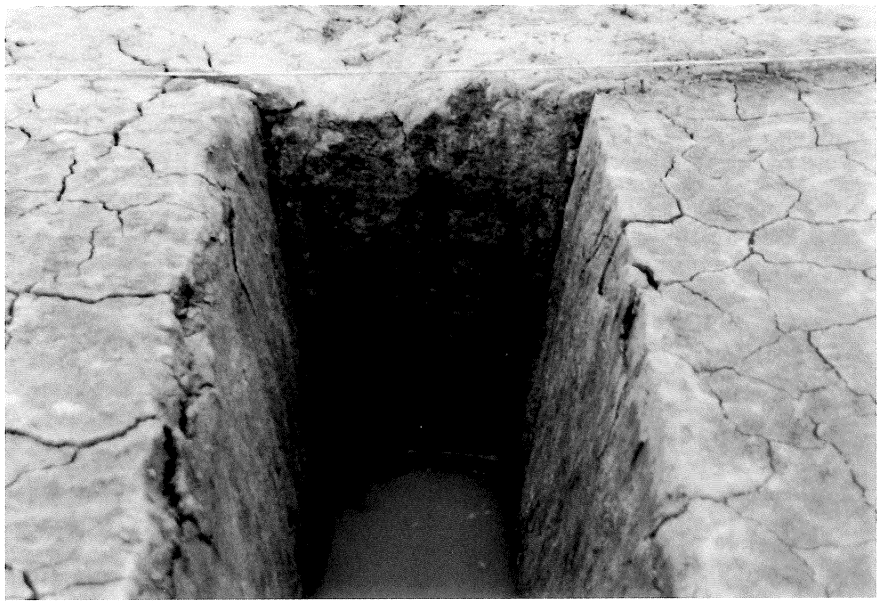
2　調査地北西部完掘状況（北から）

1　SP53 土器出土状況（北から）



2　SP 7 完掘状況（南から）

3　SD10 完掘状況（西から）



4　SD10 東壁土層（西から）

1　SX11 上層検出状況（北から）

2　SX11 完掘状況（北から）

1　SX11 北側石積み（南東から）

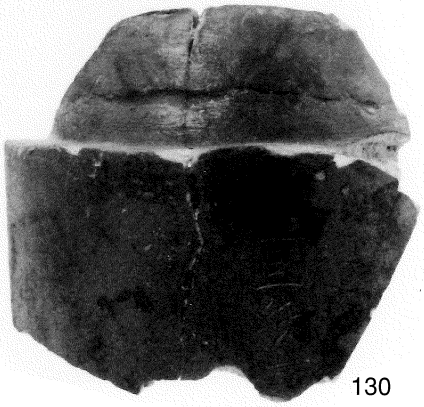
2　SX11 南側石積み（北から）

1　SK31 完掘状況（南東から）

2　調査地遠景（南西から）

127

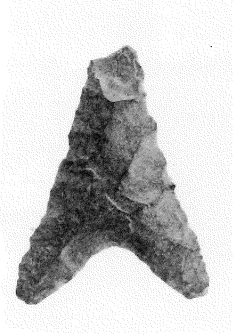
126

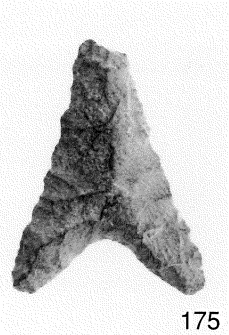

130

1　出土瓦

16

2　弥生土器（SK54）




175

3　石鏃

報 告 書 抄 録

ふりがな	かいごろうじんほけんしせつしんちくこうじにともなうまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ　じょうりあと
書　　名	介護老人保健施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　条里跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 145 集
編 著 者 名	渡邊　誠・上原ふみ
編 集 機 関	高松市教育委員会
所　在　地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号　TEL087－839－2660
発行年月日	西暦 2012 年 6 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	発掘期間	発掘面積	発掘原因
じょうりあと 条 里 跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 こうなんちょう 香南町	37201		34° 14′ 10″	134° 01′ 17″	2011.6.23 ～ 2011.7.29	511 ㎡	介護老人 保健施設 新築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
条 里 跡	集　落	弥生時代 古　代 中　世 近　世	掘立柱建物 土坑・溝 ピット	弥生土器，石器 土師質土器，須恵器， 陶磁器，瓦	

要　　約	条里跡という遺跡名の由来である条里を区画する溝跡を確認した。その他，弥生時代後期の土坑，鎌倉時代の建物跡などの集落跡，近世段階の土坑等を確認することができ，長期にわたり累積的に土地利用がなされていることが明らかとなった。 中でも中世段階の輸入陶磁器が 3 点出土し，周辺の中世の村落構造や後世の由佐氏への流れを考える上で重要な成果を得ることができた。

2012年6月30日　印刷
2012年6月30日　発行

高松市埋蔵文化財調査報告第145集
介護老人保健施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
条里跡

発　行　者　高松市番町一丁目８番15号
高松市教育委員会
印　刷　者　高松市成合町７４２－１
（株）中央印刷所